



CHIBA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

千葉県立美術館 年報 NO.27

April 2000-March 2001
ANNUAL BULLETIN OF
CHIBA PREFECTURAL
MUSEUM OF ART

目 次

ごあいさつ	1
沿 革	2
平成12年度主要記事	4
展 示 事 業	5
収蔵作品による企画展	6
特 別 展	13
企 画 展	15
普 及 事 業	17
美術講演会・特別講演会・音声ガイダンス	18
ミュージアムコンサート・実技講座	
こども写生会・こどもアートチャレンジ	19
触れる美術展	
一日学芸員体験学習・こどもワークショップ	20
美術めぐりの旅	
情報資料室・活動協力	21
展覧会協力	22
貸出資料一覧	23
調 査 ・ 収 集 事 業	25
収 蔵 資 料	26
管 理 運 営	28
機 構	29
平成12年度職員・協議会委員・利用状況	30
展示室利用団体	31
施 設	33
関係法令等	37
利 用 案 内	38

ご あ い さ つ

平成12年度の千葉県立美術館における活動の実績を年報としてまとめました。

本館は昭和49年の開館以来、地域美術館及び近代美術館としての活動を通し、県民のさまざまな美術に対する要望にこたえるよう努めてまいりました。

12年度は、特別展として、16世紀から19世紀までの近世ヨーロッパ絵画100点を4部構成で紹介した「100の光彩―近世ヨーロッパ絵画の軌跡―」を開催しました。企画展としては、本県木更津市に在住し、仮名書の第一人者として活躍した千代倉桜舟に焦点をあてた「千代倉桜舟展」を開催しました。

一方、本館が収蔵する作品の展示については、種々のテーマに基づいた収蔵作品による企画展を開催したほか、県内2地域において移動美術館を実施しました。

このほか、美術についての理解を深め、作品鑑賞の一助とするため、展覧会に関連づけて美術講演会を開催し、さらに、こどもたちに創作の喜びや美術館活動に対する理解を深めてもらうため、「こども写生会」、「こどもワークショップ」、「一日学芸員体験学習」を開催しました。また、美術の各分野にわたる実技講座を実施し、ますます高まっている県民の美術創作への意欲にこたえてまいりました。

作品の収集にあたっては、収集基本方針に基づき、作家や所蔵家の協力を得ながら、コレクションの体系化とその充実化を図りました。

今後とも、関係諸機関や各団体をはじめ、県民の皆様方の御指導と御支援をお願いいたします。

平成13年8月

千葉県立美術館長

中 村 哲

千葉県立美術館は、昭和43年にまとめられた県立博物館設置構想に基づき建設計画をすすめ、昭和48年4月教育庁文化課に美術館準備室を置き、開館事務に当たった。同49年3月第1期工事の展示棟が完成し、4月1日千葉県立美術館として機関設置し、10月23日開館式を挙げ、一般公開を始めた。同51年に第2期工事の管理棟が、同55年2月に第3期工事の県民アトリエ棟、更に同63年8月の増築工事で展示棟及び収蔵庫が完成した。

昭和44年12月9日 第1回千葉県立美術館建設懇談会が開かれる(委員15名)
 昭和45年1月19日 県立美術館建設の請願書が2月県議会で採決される
 昭和45年7月24日 建設地として千葉公園に内定する
 昭和45年11月12日 第1回美術館設置準備専門委員会が開かれる(委員10名)
 昭和46年3月31日 千葉公園内の美術館基本構想成る
 昭和46年6月24日 体育館移転問題等で千葉公園内建設が不可能となる代案として千葉市中央港埋立地が提示される
 昭和47年1月5日 建設地を千葉市中央港の埋立地に決定し、使用について開発庁長と教育長で覚書を交換する
 昭和47年3月31日 基本設計完了する(株式会社大高建築設計事務所)
 昭和47年7月31日 展示棟第1期工事の実施設計完了する
 昭和47年9月21日 展示棟杭打工事着工
 昭和47年10月13日 展示棟建築工事請負契約議案可決される
 昭和47年12月10日 展示棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)
 昭和48年4月1日 文化課に美術館準備班を置き、開館事務に当たる
 昭和48年11月30日 管理棟(第2期工事)の実施設計完了する
 昭和49年3月31日 展示棟竣工
 昭和49年4月1日 千葉県立美術館発足する(職員14名)
 昭和49年10月23日 開館記念式典を行う
 昭和49年10月24日 開館記念展「千葉県美術展覧

会」を開催一般公開を始める
 昭和50年2月21日 管理棟杭打工事着工
 昭和50年3月13日 管理棟建築工事請負契約議案可決される
 昭和50年3月16日 管理棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)
 昭和51年2月20日 管理棟竣工
 昭和51年3月2日 管理棟完成記念特別展「浅井忠とその師弟展」を開催する
 昭和51年6月7日 寄附によって、正面玄関に植栽を行う
 昭和52年3月12日 彫刻の屋外展示を始める
 昭和52年4月10日 展示棟の一室に美術普及室を開設する
 昭和53年1月18日 外構工事として、駐車場が拡張され、100台の収容となる
 昭和53年2月21日 美術普及棟の準備会が発足する
 昭和53年10月17日 美術普及棟建築予算が計上される
 昭和53年11月18日 浅井忠像完成除幕式
 昭和53年11月30日 美術普及棟実施設計完了する
 昭和54年1月8日 美術普及棟を県民アトリエ棟と改称する
 昭和54年3月5日 県民アトリエ棟建築工事請負契約議案可決される
 昭和54年3月22日 県民アトリエ棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)
 昭和55年2月29日 県民アトリエ棟竣工
 昭和55年3月16日 県民アトリエ棟完成記念講演会
 昭和55年4月1日 千葉県美術品取得基金条例施行される
 昭和55年9月9日 県民アトリエ棟情報資料室を開設する
 昭和58年7月29日 美術普及コーナーを開設する
 昭和58年11月12日 開館10周年と県展開催35周年を記念した記念碑を建立する
 昭和61年3月25日 展示棟、収蔵庫、機械室増築工事設計料の予算化
 昭和61年4月10日 入口門扉4カ所設置
 昭和61年4月23日 美術館西側沿道寄りの生垣植栽
 昭和61年8月12日 講堂浸水防止工事
 昭和62年3月25日 機械室増築基本設計及び展示

棟、収蔵庫、機械室増築工事
実施設計完了する

昭和62年10月15日 展示棟、収蔵庫、機械室増築
工事着工（監理・大高建築設
計事務所、施工・株式会社竹
中工務店）

昭和63年5月20日 受水槽設備改修工事（地上式）
着工

昭和63年8月31日 受水槽設備改修工事（地上式）
完了する

昭和63年8月31日 展示棟、収蔵庫、機械室増築
工事完了する

平成元年2月28日 増築展示棟周辺芝張工事完了
する

平成元年4月1日 普及課が新設され、3課とな
る

平成元年4月20日 開館15周年記念特別展「房総
と近代美術」を開催する

平成元年9月11日 空調機改修工事実施設計完了
する

平成2年6月8日 空調機改修工事完了する

平成2年9月29日 収蔵庫（第1、2室）冷凍機
改修工事着工

平成2年11月7日 案内標識改修工事着工

平成3年1月31日 収蔵庫（第1、2室）冷凍機
改修工事完了する

平成3年2月20日 案内標識改修工事完了する

平成3年12月6日 空調用ポンプ改修工事完了す
る

平成4年4月1日 運営の一部が（財）千葉県社
会教育施設管理財団へ委託さ
れる

平成4年10月20日 温湿度記録装置改修工事完了
する

平成4年12月18日 食堂改修工事完了する

平成6年7月23日 開館20周年記念特別展「房総
の美術」を開催する

平成10年2月23日 ガス設備改修工事完了する

平成10年12月24日 空調設備改修工事完了する

平成11年6月5日 開館25周年記念特別展「ヒュ
ーストン美術館展」を開催す
る

平成12年3月30日 屋根材剥落補修工事完了

点字ブロック設置工事完了

平成12年7月31日 文部省委嘱事業「親しむ博物
館づくり事業」受託

平成13年3月29日 屋根材剥落補修工事完了（第
7展示室）

平成 12 年 度 主 要 記 事

4月15日	収蔵作品による企画展 「房総と近代美術(1)」(5月28日まで)	11月7日	企画展 「第24回千葉県移動美術館」 (和田町コミュニティセンター 11月22日まで)
4月20日	収蔵作品による企画展 「新収蔵作品展」(5月28日まで)	11月10日	スポーツと美 こどもアートチャレンジ作品展(千葉県スポーツ科学総合センター内)(12月10日まで)
4月25日	企画展 「触れる美術展」(4月30日まで)	11月11日	第3回こどもワークショップ (11月25日まで 日数4日)
5月11日	陶芸講座(6月28日まで 日数6日)	11月11日	収蔵作品による企画展 「没後70年記念 石井林響展」 (12月10日まで)
6月3日	特別展「100の光彩-近世ヨーロッパ絵画の軌跡」(7月30日まで)	11月25日	企画展「第24回千葉県移動美術館」 (木更津市駅前ホール 12月10日まで)
6月24日	美術講演会	11月25日	企画展「千代倉桜舟展」 (1月28日まで)
7月20日	第5回こども写生会	12月9日	第4回こどもワークショップ
7月11日	彫刻講座(7月28日まで 日数10日)	12月16日	収蔵作品による企画展 「房総と近代美術(2)」(1月28日まで)
8月2日	博物館実習(8月8日まで 日数6日)	1月10日	収蔵作品による企画展 「立体の魅力・彫刻」(4月15日まで)
8月5日	第1回こどもワークショップ	1月13日	特別講演会
8月5日	企画展 「こどものための展覧会-すごい！そのエネルギーはどこからくるのですか？-」(9月3日まで)	1月23日	金工講座(2月8日まで 日数10日)
8月22日	収蔵作品による企画展 「浅井忠とその周辺」(9月3日まで)	2月3日	収蔵作品による企画展 「自然との対話-イメージの源泉を探る-」(3月25日まで)
8月26日	第5回こども写生会展(8月27日まで)	2月16日	「瑛九の銅版画」(3月28日まで)
8月26日	第2回こどもワークショップ (9月10日まで 日数4日)	2月23日	篆刻講座(2月28日まで 日数6日)
9月9日	収蔵作品による企画展 「目で感じる音」 「象嵌の技法」 「水彩画の世界」(10月9日まで)	3月20日	美術めぐりの旅 ミュージアムコンサート
9月16日	ミュージアムコンサート		
10月17日	千葉アートセレクション (さわやか県民プラザ 10月29日まで)		
10月29日	版画講座(11月3日まで 日数10日)		
10月29日	スポーツと美 こどもアートチャレンジ(千葉県総合運動場内)		

展 示 事 業

収蔵作品による企画展は、「新収蔵作品展」「房総と近代美術」などをはじめ、「浅井忠とその周辺」「水彩画の世界」「目で感じる音」「象嵌の技法」「石井林響展」「自然との対話」「瑛九の銅版画」「立体の魅力 彫刻」など、11のテーマに基づく構成により開催した。

特別展としては、「100の光彩-近世ヨーロッパ絵画の軌跡-」を実施した。

また、企画展として「千代倉桜舟展」、「こどものための展覧会」、「第24回千葉県移動美術館」を安房郡和田町と木更津市で開催した。

収 蔵 作 品 に よ る 企 画 展

「房総と近代美術」(1)

千葉県ゆかりの作家をはじめ、国内外の近現代美術を中心とした収蔵作品の中から、展示の要望の高い作品を選んで紹介した。

会 期 平成12年 4月15日(土)～5月28日(日) 38日間
会 場 第3展示室
展示点数 32点
入場者数 15,592人

＜洋画＞

1	浅井 忠	薬屋根	1887頃
2	〃	漁婦	1897
3	〃	婦人像	1907
4	石井 柏亭	信州風景	1948
5	梅原 龍三郎	純子像	1968
6	岸田 劉生	霽れたる冬之日	1917
7	椿 貞雄	八重子像	1918
8	〃	牡丹	1920
9	安井 曾太郎	熱海附近	1929
10	柳 敬助	婦人像	不詳
11	ビ ゴー	稲毛村のわがアトリエ	1892～97頃
12	〃	稲毛の女漁師と子ども	〃
13	〃	稲毛の夕焼け	〃
14	コロー	ナポリ近郊の思い出	1860～65頃
15	クールベ	眠る人	1853
16	ドービニー	オワーズ川のほとり	1865
17	フォンタネージ	十月、牧場の夕べ	1860
18	〃	牛を追う農婦	1862頃

19	フォンタネージ	川辺の二頭の牛	1865頃
20	〃	森の空地の農婦	〃
21	ミレー	垣根に沿って草を食む羊	1860頃
22	ルノワール	少女像	1916～18頃
23	トロワイヨン	河辺の道	1860～65頃

＜彫刻＞

1	高村 光太郎	裸婦座像	1916頃
2	〃	手	1918頃
3	〃	大倉喜八郎の首	1926

＜工芸＞

1	香取 秀真	鳥銅鳳凰香炉	1912
2	〃	菊文釜	不詳
3	津田 信夫	鳳翔薫炉	1937
4	〃	北辺夜猫子	1941
5	宮之原 謙	象嵌十字星結晶花挿	1932
6	〃	彩地盛連葉文壺	1955頃

「新収蔵作品展」

平成11年度に新たに収蔵した日本画・洋画・工芸・書・版画を紹介した。

会 期 平成12年 4月22日(土)～5月28日(日) 32日間
会 場 第1・2・8展示室
展示点数 63点
入場者数 14,404人

＜日本画＞

1	石井 林響	湖山清秋	1927
2	浦田 正夫	外房早春	1935頃
3	小幡 春生	千手観音(二十八部像)	1970頃
4	〃	水郷風景	1980頃
5	〃	龍上観音	〃
6	杉原 元人	更	1993
7	〃	韻	1994
8	〃	山氣	1998
9	杉原 笛邦	南総九十九谷	1957
10	〃	水辺	1964
11	牧野 三生郎	三十三間堂	1966
12	〃	比叡定光院	1968

15	田坂 乾	シブブルーズ	1983
16	〃	ニースの港	〃
17	〃	ブリュージュ	〃
18	〃	ヴェネチア	〃
19	山倉 克己	高原暮色	1973
20	〃	田園春めく	1999
21	山谷 鉄一	遊弋(魚と遊ぶ海女)	〃

＜工芸＞

1	石井 康治	環象文器	1993
2	〃	彩花文器	1995
3	戸島 甲喜	聖域の傳説	1976
4	〃	天と地の間に	1977
5	〃	蘇生	〃
6	〃	古代より・・・	1978
7	〃	胎宙の図	1992
8	〃	〃	1996
9	松原 利男	藍形染着物 浜辺文	1993
10	〃	長板中形 蛤に海草文	1997
11	〃	長板中形 鯉文	1998
12	深山 美峰	四君子	1955頃
13	〃	襲獲	1965頃
14	〃	飛鶴	1975頃

＜洋画＞

1	青木 純子	静物	1960
2	〃	幽と明	1977
3	〃	静	1989
4	秋元 恒	横臥裸婦	1947
5	〃	切通し	1969
6	〃	杉	1976
7	〃	上貝塚の丘(Ⅱ)	1995
8	石橋 武治	雨の海	1957
9	〃	足をふく女	1958
10	〃	高原の朝	1961
11	〃	水辺の家	1963
12	〃	湖畔	1964
13	〃	利根川	不詳
14	田坂 乾	カルポーの泉	1978

＜書＞

1	浅見 錦龍	良寛詩	1999
2	〃	〃	〃
3	〃	いろは	〃
4	〃	太陽	〃

収蔵作品による企画展

5	小高 映 帯	杜甫の詩	1999	＜版画＞		
6	中村 象 閣	平家物語の一節	1937	1	久保木 彦	ローデンプルグの城門 1995
7	"	万葉長歌	1998	2	"	夢の古城 "
8	"	星野立子句	1999	3	"	与田浦 1999
9	日暮 曠 岱	古佛有家風	1998	4	"	水無月の水郷 "
10	福田 丞 洲	啄木のうた	"	5	"	思い出 "
11	宮小路 康文	四季唐宋詩選	不詳			

「浅井忠とその周辺」

日本近代洋画の先駆者・浅井忠（1856～1907）の作品と資料を中心に、浅井と活動を共にした作家や浅井の弟子の作品、浅井の師フォンタネージが影響を受けたバルビゾン派の画家たちの作品も併せて紹介した。

会 期 平成12年 8 月 5 日（土）～ 9 月 3 日（日） 26日間
 会 場 第1・2・3展示室
 展示点数 154点
 入場者数 10,757人

＜Ⅰ 幼年時代～東京時代＞

1	黒沼 槐 山	花鳥図	不詳
2	"	絵手本	1869頃
3	フォンタネージ	木立	1868～72
4	"	池と樹木	1870～72
5	"	神女之図	1876～78
6	"	風景1	不詳
7	"	風景2	"
8	浅井 忠	槐庭時代画帳	1864頃
9	"	草書千字文	1866頃
10	"	謝恵連雪賦	"
11	"	女の顔(模写)	1876～78
12	"	印旛沼	1878頃
13	"	本所風景	"
14	"	玉川	"
15	"	風景(1)	"
16	"	鍛冶橋	"
17	"	風景	"
18	"	沢入駅	1884
19	"	溪流	"
20	"	曳舟通り	1885
21	"	房州白浜	1886
22	"	房州白浜	1887
23	"	藁屋根	1887頃
24	"	白浜風景	1888
25	"	房州波太村	"
26	"	磐梯山の図	"
27	"	石膏臨画	不詳
28	"	手	"
29	"	ミレーの木版画「昼寝」の模写	"
30	"	漁婦	1897
31	"	小丹波村	1893
32	"	母の肖像	1899
33	"	スケッチブック	
34	"	投影画法	
35	松岡 寿	森と小川	1895
36	石井 柏 亭	冬の朝(行徳)	1909
37	石川 欽一郎	赤城淡煙	不詳
38	都 鳥 英 喜	海浜風景	1909

＜日清戦争への従軍＞

1	浅井 忠	平壤大同江煉光亭	1894
2	"	朝鮮大同門図	"
3	"	貔子窩第二軍司令部	1894～95
4	"	瀋家邨天長節祝宴	"
5	"	金州城南門外	"
6	"	金州城壁上	"
7	"	旅順戦後の搜索	1895

8	浅井 忠	従征画稿	1895
9	"	スケッチブック	

＜浅井忠と図画教科書＞

1	浅井 忠	本と花	1889
2	"	桶とせいろ	1902～07
3	"	はたらく婦人	"
4	"	樹Ⅰ	"
5	"	野菜	不詳
6	"	彩画初歩	1896
7	"	新按小学画手本	"
8	"	修正新案小学画手本	1900
9	"	中学習画帖	"
10	"	小学鉛筆画帖	1902
11	"	中等鉛筆画手本	1905
12	"	新編自在画臨本	1906

＜Ⅱ ヨーロッパ留学時代＞

1	浅井 忠	パリ公園	1900～02
2	"	西洋婦人	"
3	"	フォンテンブローの夕景	1901
4	"	フォンテンブローの森	"
5	"	グレーの塔	"
6	"	農婦	1902
7	"	欧州市場風俗	1903頃
8	"	絵皿	1901
9	"	欧州日記附巴里日記	1900
10	"	欧州日記別冊	"
11	"	滞欧時代使用手帳	1900～02
12	"	自筆絵葉書	"
13	"	スケッチブック	
14	塚本 靖	フォンテンブロー宮殿	1901
15	和田 英 作	塚本靖肖像	"

＜Ⅲ 京都時代＞

1	浅井 忠	農家	1902
2	"	奈良郊外	1903
3	"	京都高等工芸学校の庭	"
4	"	中沢岩太像	"
5	"	東宮御所壁飾草稿(1)	1905
6	"	山狩武者	"
7	"	老母像	1906
8	"	婦人像	1907
9	"	月瀬紀行 薫世界	1905
10	"	吉野紀行 錦世界	1908
11	伊藤 快 彦	林檎	不詳
12	桜井 忠 剛	バラ	"
13	牧野 克 次	松林	"

収 蔵 作 品 に よ る 企 画 展

14	鹿子木 孟郎	風景	不詳
15	足立 源一郎	浄土寺村ニテ	1907
16	梅原 龍三郎	竹窓読書図	1937
17	小川 千甕	港	不詳
18	加藤 源之助	秋の山(大和初瀬村)	1908
19	国松 桂 溪	仏国トルドンヌ	1923頃
20	黒田 重太郎	浴後	1927
21	榊 原 一 広	収穫	1918
22	澤部 清五郎	桜	不詳
23	霜 鳥 之 彦	ロシアの女	1923
24	田中 志奈子	デッサン(裸体)	1905
25	田中 善之助	出町	1906
26	中 林 僊	冬の風景	1935頃
27	西 川 純	保津峡	不詳
28	長谷川 良雄	晩秋	1909
29	間 部 時 雄	田園風景	1906
30	安井 曾太郎	熱海附近	1929

<Ⅳ 日本画>

1	浅 井 忠	田植之図	1889
2	〃	松	1892
3	〃	ほしかき	1890~97
4	〃	琵琶法師	〃
5	〃	狂女	1898頃
6	〃	欧州風景	1902~03
7	〃	盗賊	1902~07
8	〃	農耕の図	〃
9	〃	人物風俗図	〃
10	〃	もろこしと鳳仙花	〃
11	〃	羊の図	1907
12	〃	当世風俗五十番歌合 15番	〃
13	〃	当世風俗五十番歌合 28番	〃

<Ⅴ 工芸・図案・彫刻>

1	浅井 忠(図案)	急須	1902~07
2	〃	農家風俗手塩皿	〃
3	〃	桔梗文花瓶	〃

4	浅井 忠(図案)	インカ文湯呑	1902~07
5	〃	草花盆	〃
6	〃	花瓶	〃
7	〃	向付皿	〃
8	〃	茶器「猿蟹合戦ノ図」	〃
9	浅井 忠	溪流	〃
10	〃	花瓶図(魚)	〃
11	〃	花瓶図	〃
12	〃	花瓶2種	〃
13	〃	戸棚図	〃
14	〃	木かげの女	〃
15	〃	花木	〃
16	〃	女神図	〃
17	〃	風俗図	〃
18	〃	モロコシの図	〃
19	〃	ダチョウ図	〃
20	〃	煙草入れ	〃
21	〃	鉢の図	〃
22	〃	お福の像	〃
23	〃	羅漢像	〃
24	〃	農婦像	〃

<Ⅵ フォンタネージとバルビゾン派の画家たち>

1	フォンタネージ	十月、牧場の夕べ	1860
2	〃	牛を追う農婦	不詳
3	コ ロ ー	ナポリ近郊の思い出	1860~65
4	ク ー ル ベ	嵐	1865頃
5	ドービニー	オワーズ川のほとり	1865
6	ディーズ	森の中の農婦	1868
7	デュプレ	嵐の前	不詳
8	ジャック	森の中	1871
9	ミ レ ー	垣根に沿って草を食む羊	1860頃
10	ラ ヴ ィ エ	たそがれ	1885
11	〃	モレステル風景	不詳
12	ル ソ ー	バルビゾンの農場	〃
13	トロワイヨン	河辺の道	1860~65

「目で感じる音」

「変幻の響き」「青の響き」「黒の響き」「赤の響き」の4つのセクションに分けて、音あるいは音楽と色彩とを関連づけながら作品を紹介した。

会 期	平成12年9月9日(土)~10月9日(月) 27日間
会 場	第1・2展示室
展示点数	31点
入場者数	10,303人

1	戸 田 康 一	風化	1978
2	鵜 嘸	CLOUDS	1975
3	〃	HEARTS	〃
4	若 木 山	潭	1965
5	池田 満寿夫	出来事	1962
6	〃	飾り窓の中	1963
7	〃	輪の中のビーナス	1975
8	星 襄 一	雪の玉A	1964
9	〃	星の森(大)	1971
10	関 主 税	澗声	1977
11	東 山 魁 夷	門	1952
12	〃	春雪	1973
13	渡 辺 学	夜	1968
14	小 堀 進	雨後の山(信州)	1964
15	深 沢 幸 雄	遺伝(流れ)	〃
16	〃	遺伝(影)	〃

17	古 井 洵	黒の浄土(赤)	1976
18	〃	浄土	〃
19	近藤 南海子	グレーの冬	1992
20	行 木 正義	作品G	1975
21	〃	作品81	1981
22	池 田 良 二	Nobody knows my mind	〃
23	米 林 雄 一	Circle and triangle	1983
24	牛 玖 健 治	ゆうえんち	〃
25	藤 田 喬 平	飾宮朱雀	1978
26	石 井 康 治	彩花文器	1995
27	深 沢 幸 雄	失われた像	1967
28	浜 口 陽 三	赤い鉢と黒いさくらんぼ	1966
29	〃	赤い鉢	1971
30	〃	マントリック・ミュージックⅡ	1988
31	高 畑 郁 子	メスティーンズの女達	1970

「象嵌の技法」

ある物質の表面を削り取り、そこに他の物質をはめ込んで模様をあらわす、象眼の技法に注目し、その魅力を紹介した。

会 期 平成12年9月9日(土)～10月9日(月) 27日間
 会 場 第3展示室
 展示点数 19点
 入場者数 10,203人

1	秋 山 逸 生	菱華文象嵌長手箱	1946	木象嵌
2	〃	薔芝山象嵌額	1966	〃
3	〃	蝶貝象嵌小箱	1970	〃
4	〃	カンナ芝山象嵌襟飾	1973	〃
5	大須賀 喬	蝶文黒銅香炉	1983	彫 金
6	〃	昆虫文飾皿	1986	〃
7	鹿 島 一 谷	布目象嵌菱つなぎ文南鐐水指	1981	〃
8	〃	布目象嵌 白鷺四態図 銀水注	1996	臘 銀
9	香 取 正 彦	臘銀玉錯花瓶	1973	鑄 金
10	戸 島 甲 喜	天と地の間に	1977	木象嵌
11	〃	古代より・・・	1978	〃
12	〃	胎宙の図	1992	〃
13	津 田 信 夫	海	1927	鑄金・漆
14	信 田 洋	黒孔雀の瓶	1967	彫 金
15	〃	銀瓶 (スクラム)	1976	〃
16	宮 田 宏 平	生命の透間風	1982	鑄 金
17	宮之原 謙	象嵌十字星結晶花指	1932	陶 芸
18	〃	白磁四方百合象嵌大皿	1935頃	〃
19	〃	象嵌磁サボテン壺	1970	〃

「水彩画の世界」

本館では、水彩画史上の代表的な作家の作品を収集してきたが今回はその中から明治から現代までの作品50点を展示し、時代による画風の変化、各作家の多様な表現を紹介した。また、明治後半に水彩画ブームを生み出した技法書雑誌、絵葉書なども併せて紹介した。

会 期 平成12年9月9日(土)～10月9日(月) 27日間
 会 場 第8展示室
 展示点数 50点
 入場者数 10,203人

1	浅 井 忠	金州城南門外	1894～95	26	国 枝 金 三	大阪風景	1907
2	〃	欧州市場風俗	1903頃	27	十亀 広太郎	道	不詳
3	三 宅 克 己	ローマ	1920	28	長谷川 良雄	下鴨	1915
4	〃	駿州三嶋在の緑陰	1947	29	中 西 利 雄	トリエール・シュール・セーヌ	1930
5	〃	美濃養老公園	不詳	30	〃	四人の女	1939
6	大下 藤次郎	青梅	1904	31	〃	曇り日の離宮と駅	1947
7	〃	波	1905	32	富 田 通 雄	卓による女	1948
8	〃	久々子湖	1911	33	〃	林梢	1956
9	丸 山 晩 霞	初夏	不詳	34	〃	パリモンマルトルの丘	1963
10	河 合 新 蔵	春の日	明治末頃	35	不 破 章	浴衣	1960
11	〃	竹林図	1934頃	36	〃	バンコクの水辺市	1966
12	赤 城 泰 舒	赤屋根の村	1913	37	〃	麗日新宿御苑	1977
13	後 藤 工 志	ダリア	〃	38	小 堀 進	太平洋の漁村	1941
14	相 田 直 彦	清浪	不詳	39	〃	セーヌ川	1973
15	石 井 柏 亭	舞姫	1904	40	〃	大穹	1974
16	〃	真間の入江 (下図)	1938	41	荒谷 直之介	白舟マラガ	1962
17	真野 紀太郎	バラ	1939～40	42	〃	若い裸婦たち	1976
18	白滝 幾之助	エジプト	1922	43	古 賀 春 江	風 景	不詳
19	〃	海	1939	44	三 橋 兄 弟 治	楽器のある静物	1953
20	石川 欽一郎	水辺	明治末頃	45	〃	染色をする女	1954
21	小 山 周 次	林檎と柿	1961	46	〃	トレド早春	1973
22	〃	銚子犬吠埼	〃	47	大 崎 善 生	十二橋	1950頃
23	水 野 以 文	草花	1914	48	柴 田 祐 作	白い蔵	1988
24	中 林 儼	山中湖付近	不詳	49	山 倉 克 己	田園春めく	1999
25	河 上 左 京	静物	〃	50	五十嵐 光昭	涅槃の前で	1983

収 蔵 作 品 に よ る 企 画 展

「没後70年記念 石井林響展」

日本画の革新運動に大きな足跡を残した千葉県出身の日本画家・石井林響(1884～1930)の作品を紹介した。

会 期 平成12年11月11日(土)～12月10日(日) 26日間
会 場 第8展示室
展示点数 48点
入場者数 31,217人

1	石 井 林 響	木華開耶姫	1906	25	石 井 林 響	夏山	大正初期
2	"	桃源	1913	26	"	釣人	"
3	"	漁樵	1913頃	27	"	白衣の老人	"
4	"	羅浮仙女	大正初期	28	"	老人と船	"
5	"	瑞鶴	"	29	"	寒山拾得	"
6	"	夜道を駆ける人	"	30	"	崖に向かう老人	"
7	"	山水	"	31	"	老松白鷺之図	大正期～昭和初期
8	"	松に鴉	"	32	"	唐獅子	"
9	"	唐美人	"	33	"	梅花井泉	"
10	"	高士観瀑	"	34	"	浦島太郎図	"
11	"	春秋	"	35	"	舟遊図	"
12	"	梅花小禽	"	36	"	桃源	"
13	"	白閑鳥	"	37	"	白閑鳥	1924～25
14	"	葦に鳥	"	38	"	岩魚つり	1926
15	"	弁財天	"	39	"	釣人	1927
16	"	蘇武	"	40	"	湖山清秋	"
17	"	梅花書屋	"	41	"	蓬萊仙境之図	"
18	"	雨後浮船	"	42	"	秋景山水	1928
19	"	嵐	"	43	"	山水図	"
20	"	葦と白鳥	"	44	"	松茸	1929
21	"	達磨	"	45	"	『土筆』第4巻第9号	1930
22	"	竹花鳥	"	46	"	『芋銭・林響・恒友小品画集』	1941
23	"	櫻	"	47	"	石井林響印譜	
24	"	冬景色	"	48	"	石井林響作品集 (アルバム)	

「房総と近代美術(2)」

千葉県ゆかりの作家をはじめ、国内外の近現代美術を中心とした収蔵作品の中から、展示の要望の多い作家の作品を選んで紹介した。

会 期 平成12年12月16日(土)～平成13年1月28日(日) 35日間
会 場 第8展示室
展示点数 45点
入場者数 6,138人

<日本画>

1	小 野 具 定	記憶の風景(夜)	1994
2	加 倉 井 和 夫	穀機	1967
3	後 藤 純 男	山門雨後	1974
4	島 多 訥 郎	群魚と波動	1975
5	杉 原 元 人	寂巖	1987
6	関 主 税	濶声	1977
7	富 取 風 堂	親子猿	1964
8	松 尾 敏 男	歷程	1984
9	若 木 山	安房ノ海処女	1951

<洋画>

1	浅 井 忠	藁屋根	1887頃
2	"	漁婦	1897
3	"	婦人像	1907
4	石 井 柏 亭	冬の朝(行徳)	1909
5	梅原 龍三郎	純子像	1968
6	岸 田 劉 生	霽れたる冬之日	1917
7	椿 貞 雄	八重子像	1918
8	"	牡丹	1920
9	安井 曾太郎	熱海附近	1929
10	柳 敬 助	婦人像	不詳
11	ビ ゴ ー	稲毛村のわがアトリエ	1892～97頃
12	"	稲毛の女漁師と子ども	"
13	"	稲毛の夕焼け	"
14	コ ロ ー	ナポリ近郊の思い出	1860～65頃

15	ク ー ル ベ	眠る人	1853
16	コ ラ ン	田園詩	1903
17	ドービニー	オワーズ川のほとり	1865
18	フォンタネージ	十月、牧場の夕べ	1860
19	ミ レ ー	垣根に沿って草を食む羊	1860頃
20	ルノワール	少女像	1916～18頃
21	ワーグマン	七里ヶ浜風景	不詳

<彫刻>

1	新海 竹太郎	老馬	1921
2	高村 光太郎	裸婦座像	1916頃
3	"	猪	1905頃
4	"	手	1918
5	藤 野 天 光	希望	不詳

<工芸>

1	香 取 秀 真	烏銅鳳凰香炉	1912
2	"	菊文釜	不詳
3	津 田 信 夫	鳳翔薫炉	1937
4	"	北辺夜猫子	1941
5	信 田 洋	透壺	1968
6	"	銀壺(花ひらく)	1969
7	藤 田 喬 平	飾筥朱雀	1978
8	"	飾筥・しだれ櫻	1985
9	宮 之 原 謙	盛上磁葡萄唐草壺	1943
10	"	彩地盛連葉文壺	1955頃

「立体の魅力 彫刻」

現在を軸として

- 1、彼方にある幻想的なもの・・・幻想の空間
- 2、懐古される郷愁の世界・・・懐かしい風景
- 3、現実への慈しみ、やるせなさ・現実にかけて

の3つのコーナーでそれぞれに潤いとロマンのある世界を持つ彫刻作品を作品に関するエピソードとともに紹介した。

会 期 平成13年1月10日(水)～4月15日(日) 83日間
 会 場 第7展示室
 展示点数 16点
 入場者数 24,027人

<幻想の空間>

- | | | |
|----------|---------------------|------|
| 1 長谷川 昂 | 花の国の母神 | 1961 |
| 2 伊藤 礼太郎 | 夜叉神解脱 | 1982 |
| 3 金田 雄作 | "Bed Room" N氏邸見取図より | 1984 |
| 4 松本 雄治 | 大母神、天を翔ける | " |
| 5 陰里 寿朗 | 構造上の森(街かもしれない) | 1988 |

<懐かしい風景>

- | | | |
|---------|---------------------|------|
| 6 鈴木 徹 | 馬と娘の恋物語(3部作-秋・冬・早春) | 1984 |
| 7 工藤 健 | 愁いのマンドーラ | 1991 |
| 8 山本 正道 | ヴァージニア | 1979 |

- | | | |
|----------|---------|------|
| 9 山本 正道 | エトルリアの壺 | 1985 |
| 10 笠原 鉄明 | 帰る日 | 1993 |

<現実にかけて>

- | | | |
|-----------|-------------|------|
| 11 郡司 和男 | 詩人の肖像 | 1976 |
| 12 山崎 英五 | 地を這う者ども | 1981 |
| 13 浦野 八重子 | 生きるということ | 1987 |
| 14 伴 正史 | 人「無言」 | 1997 |
| 15 南部 治夫 | 時の流れに・・・(相) | 1989 |
| 16 澤田 志功 | 森は観つめる | 1995 |

「自然との対話」ーイメージの源泉を探るー

芸術表現の原点であり、イメージの源泉でもある自然をテーマにした作品を4つのセクションに分けて紹介した。

会 期 平成13年2月3日(土)～3月25日(日) 44日間
 会 場 第1・2・8展示室
 展示点数 46点
 入場者数 16,046人

■セクション1 海と人間ー恵みの海、挑む海ー

- | | | |
|---------|-------------|-------|
| 1 若木 山 | 安房ノ海処女 | 1951 |
| 2 " | 海女 | 1952 |
| 3 " | 波上海女図 | 1953 |
| 4 " | わだつみ | 1968 |
| 5 寺田 政明 | 犬吠灯台の見える外川港 | 1985 |
| 6 小堀 進 | 太平洋の漁村 | 1941 |
| 7 椿 貞雄 | 岩 | 1936 |
| 8 クール ベ | 嵐 | 1865頃 |
| 9 小野 具定 | 遠くなった海 | 1974 |
| 10 " | 漁村 | 1975 |
| 11 渡辺 学 | 夜明け | 1976 |
| 12 " | 河口 | " |

■セクション2 天と地の間で

- | | | |
|-----------|------------------------|------|
| 13 星 襄一 | 陽(林) | 1978 |
| 14 小宮山 俊 | 赤い嶺(雪稜) | 1988 |
| 15 " | 白い嶺 | " |
| 16 日野 耕之祐 | 黒い雲 | 1984 |
| 17 片小田 栄治 | 地I(DIRTY COLLECTIONより) | 1990 |
| 18 松本 秋美 | aspettare | 1983 |
| 19 田中 定一 | 私の地球 | 1990 |
| 20 上野 斌郎 | 林間水浴染色壁掛 | 不詳 |
| 21 " | 森の裸婦染色壁掛 | " |
| 22 武田 武弘 | ランボーの詩より「朝」 | 1975 |
| 23 富取 風堂 | 游鯉(其一) | 1928 |
| 24 " | 游鯉(其二) | " |

■セクション3 季節は巡る

- | | | |
|-----------|---------|------|
| 25 星加 達夫 | 影 | 1996 |
| 26 櫻田 精一 | 冬の並木路 | 1965 |
| 27 西村 昭二郎 | 新雪 | 1984 |
| 28 東山 魁夷 | 春雪 | 1973 |
| 29 関 主税 | 晨 | 1984 |
| 30 富取 風堂 | 麦秋 | 1972 |
| 31 " | うすれ陽 | 1975 |
| 32 黒沢 吉蔵 | 古郷晩夏 | 1988 |
| 33 横山 朝陽 | 草花文搔落花瓶 | 不詳 |
| 34 " | 牡丹紋搔落壺 | " |
| 35 鈴木 治平 | 湿原の詩 | 1985 |
| 36 宮之原 謙 | 彩盛百合文壺 | 1974 |
| 37 " | 天目釉草花文壺 | 不詳 |

■セクション4 懐かしき地

- | | | |
|----------|----------|-------|
| 38 佐善 明 | エルバソの居留区 | 1980 |
| 39 櫻田 精一 | 追憶 | 1974 |
| 40 時田 直善 | 夕風 | 1954 |
| 41 酒井 亜人 | 冬 | 1937 |
| 42 " | 大海 | 1954 |
| 43 椿 貞雄 | 犬吠埼 | 1948 |
| 44 石井 柏亭 | 冬の朝(行徳) | 1909 |
| 45 " | 安倍川 | 1936頃 |
| 46 浅井 忠 | 薬屋根 | 1887頃 |

「瑛九の銅版画」

大正から昭和にかけて活躍した前衛芸術家瑛九の制作した銅版画作品50点と水彩画作品1点。関連資料として瑛九と同時代を生きて活動をともした鰐唄のアクリル画、池田満寿夫の版画作品併せて10点を紹介した。

会 期 平成13年 2月3日(土)～3月28日(水) 44日間
 会 場 第3展示室
 展示点数 61点
 入場者数 16,046人

<瑛九作品>

1	楽園	1951	銅版・紙
2	鳥	1952	"
3	道	"	"
4	休日	"	"
5	踊り	"	"
6	夢	"	"
7	鳥の目	"	"
8	手	1953	"
9	ささやき	"	"
10	波のたわむれ	1954	"
11	愛の家	1951	"
12	指	1952	"
13	ヴァイオリン	"	"
14	林の目	1953	"
15	少女	"	"
16	動物の仲間	"	"
17	庭園	"	"
18	仲間	"	"
19	みみづく	"	"
20	家族	"	"
21	散歩A	1952	"
22	オペラグラス	1953	"
23	海底	"	"
24	ポエム	"	"
25	音楽	"	"
26	魚	1954	"
27	白い角	"	"
28	鳥の踊り	1955	"
29	円	1956	"
30	雲の花B	1969	"
31	かぎ	1953	"
32	よろこびB	"	"
33	家族B	1954	"
34	愛のよろこび	"	"
35	ドンファン	"	"
36	風	"	"
37	サーカス	1955	"
38	シグナルB	"	"
39	ひまわり	"	"
40	いたずら	1956	"
41	あこがれ	1954	"
42	メガフォン	1955	"
43	愛する二人	"	"
44	顔A	"	"
45	指の目	"	"
46	誘惑	"	"
47	白さぎ	"	"
48	風車	1957	"
49	かべ	"	"
50	風景A	"	"
51	鳥	1956	水彩・紙

[関連作家作品]

<池田満寿夫 作品>

1	出来事	1962	銅版・紙
2	飾り窓の中	1963	"
3	something 1	1966	"
4	シンデレラの広告	"	"
5	夜の旅	1970	"
6	ウエルカムB	1969	石版・紙
7	マーガレットの庭	1970	"

<鰐唄 作品>

8	I N S E C T	1975	キャンバス・アクリル
9	B I R D S	"	"
10	A N G E R E S	"	"

「100の光彩」—近世ヨーロッパ絵画の軌跡—

16世紀から19世紀にかけての近世ヨーロッパ絵画100点を4つのセクションに分けて紹介した。

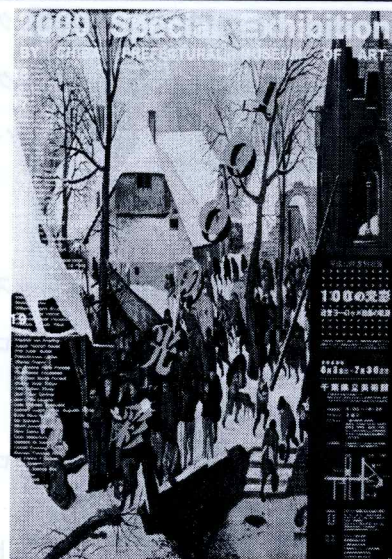
会 期 平成12年6月3日(土)～

7月30日(日) 50日間

会 場 第1・2・3・8展示室

展示点数 100点

入場者数 12,061人



1	ピーテル・ブリューゲル 1 世	メッシーナ海峡での海戦	1561
2	〃	最後の審判	1558
3	〃	怠惰く7つの罪源>シリーズより	〃
4	ピーテル・ブリューゲル 2 世	東方三博士の礼拝	
5	ヤン・ブリューゲル 1 世	荷車を引く農夫のいる風景	
6	アドリアン・ファン・オスターデ	納屋で酒盛りする農民	1639
7	ヤコブ・イサークスゾーン・ファン・ロイスダール	滝のある風景	1650年代後半
8	ディオニス・フェルブルフ	ラインの流れ	
9	ディルク・ハルス	トランプをする人たち	
10	ヤン・ステーン	愛のアレゴリー	
11	ペーテル・パウル・ルーベンス	コンスタンチヌスの結婚	1622
12	マインデルト・ホッペマ	小屋のある川辺風景	
13	サロモン・ファン・ロイスダール	2 台の馬車と渡し舟のある川辺の風景	1661
14	伝ニコラ・プッサン	ゼウスとアンティオペ	
15	ジャック・ブランシャール	ダナエ	1630年代前半
16	ウスタッシュ・ル・シュウール	ガラテアの凱旋	
17	シャルル・ル・ブラン	パンドラ	
18	クロード=ジョゼフ・ヴェルネ	ティヴォリの小さい滝の風景	
19	クロード・ロラン	木を伐り出す人々(川のある風景)(6/3～6/30展示)	
20	ジャン=トーマ・ティボー	牧歌的風景(7/1～7/30展示)	1637
21	カルル・ヴェルネ	丘の上の城塞	
22	ジャック=シャルル・ウードリー	古典的風景・水浴	
23	ジャン・アントワヌ・ヴァトー	ペキニーズ犬、リンダ	1766
24	〃	戦場からの帰還	1709
25	〃	フラスコを持って正面を向いている着衣の道化師	1703～07頃
26	〃	夏の楽しみ	
27	ジャン=バティスト=ジョゼフ・パテル	狩りでの逢いびき	
28	〃	舞踏会の楽しみ(ジャン・アントワヌ・ヴァトーの模写)	
29	ジャン=バティスト・シメオン・シャルダン	庭園の役者たち	
30	伝フランソワ・ブーシェ	銅鍋と水指しのある静物	
31	ジャン=バティスト・ユエ	泉の羊飼い	1756頃
32	〃	小川のそばに農民と家畜のいる田舎の風景	1786
33	ジャン=フレデリック・シャル	水車のある風景	
34	ジャン=ジャック・バシュリエ	プロヴァンス風の衣装をつけた若い女性の肖像	
35	ユベール・ロベール	ミミ、ボンパドル夫人の愛犬	1762
36	ジャン=マルク・ナティエ	木橋の上の風景	
37	ジャン=オノレ・フラゴナール	フォンテット男爵夫人の肖像	1755
38	〃	かくれんぼ	1773～74頃
39	〃	農民の家族	1762
40	カルル・ヴァン・ロー	アネットとリュバンのいる風景	
41	〃	ローヌ河	
42	ジョゼフ=マリー・ヴィアン	ソーヌ河	
43	ピエール・アンリ・ド・ヴァランシエンヌ	スザンナと長老たち	1744頃
44	ニコラ・アントワヌ・トーネー	アモールを探すブシュケ	
		市場風景	

特別展

45	フィルベール＝ルイ・ドウビュクール	軍人の楽しみ	
46	トーマス・ローレンス	ヒックス嬢の肖像	1805頃
47	ジャン＝オーギュスト＝ドミニク・アングル	パオロとフランチェスカ	1845頃
48	ナルシス＝ヴィルジール・ディアズ・ド・ラ・ペーニャ	ヴィーナスとキューピッド	
49	ジュール＝アレクサンドル・デュヴァル＝ルカミュ	田園の宴	
50	トマ・クチュール	移民の群れ（ある歴史画のための習作）	
51	〃	世界を率いる愛、あるいは荊棘の道（習作）	
52	〃	少女の顔（第1段階）	1876
53	〃	〃（第3段階）	〃
54	ヘンリー・コートニー・スルーズ	純潔	1883
55	〃	虚栄	1885
56	ウージェーヌ・フロマン＝ドウロルメル	罰を受けるキューピッド	
57	アレクサンドル・カバネル	サムソンとデリラ	1878
58	ヴィルヘルム・クレイ	海辺のプシュケ	
59	モデスト・カルリエ	狩りの女神ディアナ	
60	ウィリアム＝アドルフ・ブーグロー	アルカディアの牧人たちの時代の秋または秋の情景	1855
61	ジャン＝ジャック・エンネル	森の中のニンフ	
62	〃	岩につながれたアンドロメダ	
63	アレクサンドル＝ガブリエル・ドカン	ゲネサレ湖のキリスト（習作）	
64	テオデュール・オーギュスタン・リボ	雅びな宴	
65	〃	インク壺のある静物	
66	フランソワ＝ルイ・フランセ	若い女性	1894
67	ピエール＝オリヴィエ＝ジョゼフ・コーマン	婦人像	1878
68	フリードリッヒ・フォン・アメーリング	東洋風衣装の婦人	1854
69	アウグスト・ハインリヒ・リーデル	タンバリンを持つ少女	
70	フリッツ・ツベル＝ビューレル	いんこを手にした女性	
71	フランソワ＝ルイ・ランファン（ランファン・ド・メッツ）	それゆけ！	
72	シャルル・シャブラン	ロトで遊ぶ子供たち	
73	〃	仮面舞踏会のあと	
74	ジョン・フレデリック・ピーテル・ポルティエルジェ	白いバラ	
75	ポール＝デジレ・トウルイユベール	裸婦	
76	レオン・ジャン・バジル・ペロー	鏡を見る婦人	1868
77	シャルル・ヴィクトール・ティリオン	花のそばの少女	1877
78	トニー・ロベール＝フルーリ	腰かけている婦人の肖像	
79	ジャン＝レオン・ジェローム	曙光	1867
80	ジャン＝ポール・ローランス	春	
81	〃	火災	
82	ジュール＝フレデリック・バラヴォワーズ	美しき女	
83	〃	アポロとダフネ	
84	ガブリエル＝ジョゼフ＝マリ＝オーギュスタン・フェリエ	ガニューメデスの略奪	
85	エミール・ルネ・メナール	エウロペの略奪	1915
86	イダ・グートマン	レダと白鳥	1895
87	アルバート・ジョゼフ・ムーア	桜	
88	ハンス・ツアツカ	フローラの夢	
89	ルイ・メーテルリンク	平和のアレゴリー	
90	ゲータノ・デ・マルティニ	オリエントの美女	
91	コンラート・フライベルク	花籠を持つ少女	1884
92	ジェルマン・テオドル・リボ	青い花瓶に生けた芍薬の花	
93	ルイス・フランコ・イ・サリナス	ピアノの前で	
94	アントン・エーベルト	森の泉	1875
95	アドルフ＝エティエンヌ・ピオ	読み方のお稽古	
96	カール・カーラー	女性像	
97	ヴィルジリオ・トジエッティ	お気に入り	1886
98	アルフレッド・グレンデニング	鳩と少女	1895
99	ガストン・ブシエール	ジュヴェンタ	
100	ギュスターヴ・クールベ	浅瀬の風景	

「千代倉桜舟展」

会 期 平成12年11月25日(土)～
平成13年1月28日(日) 47日間
会 場 第1・2・3展示室
展示点数 36点
入場者数 14,371人

君津市出身の書家、千代倉桜舟(ちよくらおうしゅう/1912～1999)の書業を回顧した。

約40メートルに及ぶ超大字かなの大作「いろは歌」をはじめ、制作中の写真やビデオ、筆、アルバムなどの関係資料も併せて展示し、エネルギー溢れる千代倉の書の魅力を紹介した。



1	ヘリオトロープの花は	1949	19	いろはうたの構築	1984
2	魚岱の歌	1952	20	苔	"
3	蕪村の句	1953	21	玉沙の書	1987
4	くさ山に	1960頃	22	宗左近の詩	1988
5	静	"	23	玉沙の書(自詠短歌)	"
6	斎藤茂吉歌	1969	24	左近の詩	1991
7	子規句	1971	25	自詠歌	1992
8	デスバレイ詩	1972	26	心宇宙	"
9	沙漠は美の廻廊	1975	27	宗左近の詩(縄文太鼓より)	1993
10	舟	1976	28	冬男の句	1995
11	心平英文詩より	"	29	心・翔・穹	"
12	雲	1977	30	愛・焰・夢	1997
13	いろは歌	1978	31	展開	1998
14	星野立子の俳句	1980	32	左近の詩	"
15	空翔ける心	1981	33	春樹の句	"
16	沙をそめた血	"	34	地球島	1999
17	一茶の句	1982	35	沙漠はワビサビ外の美	不詳
18	ひなまつりのうた	1983	36	現代詩	"

所蔵機関

木更津市教育委員会 2,9,18,20,23,24,26,31,32,33

成田山書道美術館 4,5,7,10,11,12,15,16,17,25,28,35,36

千葉県立美術館 1,3,6,8,13,14,19,21,22,27,29,30,34

こどものための展覧会「すごい! そのエネルギーはどこからくるのですか?」

会 期 平成12年8月5日(土)～9月3日(日) 26日間
会 場 第8展示室
展示点数 14点
入場者数 12,352人

収蔵作品とともに作家の創作理念や制作にかかわるスケッチ類、使用している材料、道具等を併せて紹介した。

また、こどもたちの主体的な活動を引出すためにワークシートや描くスペースを設けた。なお、本事業は、平成12年度文部省委嘱事業「親しむ博物館づくり事業」の一環として実施した。

1	関 主 税 晨	1984
2	伊牟田 経正 悲劇	1977
3	篠崎 輝夫 トルファン閑日	1996
4	中野 庸二 a ripple	1990
5	池田 丈一 ひねくれた正12面体	1987
6	山本 正道 ヴァージニア	1979
7	頼 永興 心海悠遊	1997
8	戸島 甲喜 古代より	1978
9	深沢 幸雄 小鳥紳士	1988
10	" 顔は迷路	"
11	増田 陽一 森の生活	1993
12	" すみれ色の謎	1995



企 画 展

「第24回千葉県移動美術館」

会 場	①和田町コミュニティセンター ②木更津駅前ホール
会 期	①平成12年11月7日(火)～11月22日(水) 16日間 ②平成12年11月25日(土)～12月10日(日) 16日間
展示点数	①36点 ②47点
入場者数	①550人 ②476人

当館の収蔵作品を中心に、第52回千葉県美術展覧会（県展）の受賞作品を一部加えた移動美術館を、上記の期間及び会場で開催し、美術作品を身近に鑑賞できる機会を提供した。

<日本画>

1 関 主 税	滝	不詳
② 高 畑 郁 子	メスティーソの女達	1977
3 富 取 風 堂	山桜と民家	不詳
4 松 尾 敏 男	原野	1971

<洋画>

1 鰐 嘔	ANGELES	1975
2 浅 井 忠	葦屋根	1887頃
③ 荒谷 直之介	那覇の踊り子	1967
④ 石 井 柏 亭	聖フランチェスコ寺院	1923
5 梅原 龍三郎	伊豆大仁風景	1929
⑥ 小 堀 進	真夏の海（太海）	1931
⑦ 笹 岡 了 一	秋麗芦の湖	1969頃
8 鱸 利 彦	房州伊豫ヶ岳	1970頃
9 椿 貞 雄	黒壺に椿一輪	1948
⑩ 積 田 鯉 士	貝になったブイと浜地藏	1986
⑪ 時 田 幸 彦	犬吠	1991
⑫ 服 部 正 一 郎	海鹿島山	1957
13 原 勝 郎	コーヒーひき	1949
14 三 橋 兄 弟 治	白いスペースに於ける直線の構成A	1968
⑮ 柳 敬 助	婦人像	不詳
16 フォンタネージ	牛を追う農婦	1962頃
17 ル ソ ー	バルビゾン農場	不詳

<彫刻>

1 安 西 順 一	秋晴	1948
2 郡 司 和 男	詩人の肖像	1976
3 関 正 司	IRON LADY	1982
4 高 村 光 太 郎	十和田裸婦像のための中型試作	1953
5 舟 越 保 武	婦人像	1985

6 六 崎 敏 光	香風	1984
7 山 崎 英 五	地を這うものどもⅦ	1978
8 山 本 正 道	ヴァージニア	1979

<工芸>

1 会 田 富 康	青銅双鳥置物	不詳
2 香 取 秀 真	笑獅子香炉	〃
3 津 田 信 夫	鳳翔薫炉	1937
4 土 肥 満	蹲踞	1993
5 藤 田 喬 平	飾篭・しだれ櫻	1985
6 山 本 正 年	瑞光	不詳

<書>

1 浅 見 喜 舟	ト居	1980
2 今 関 脩 竹	左千夫の歌	1988
3 大 野 虚 舟	天霊地気一騰	1992
④ 高 澤 南 総	墨縁	1979

<版画>

1 池 田 満 寿 夫	マーガレットの庭	1970
2 富 田 文 雄	森75-20	1975
3 浜 口 陽 三	1/4のレモン	1976
4 星 襄 一	王の樹	〃
⑤ 増 田 陽 一	植物の窓	1994

<第52回千葉県美術展覧会作品>

1 大 内 弘 子	白いまち	2000
2 金 谷 ち ぐ さ	写像空間	〃
3 小 泉 興 起	銭起詩	〃

※丸数字の作品は木更津駅前ホールのみの展示

普及事業

美術講演会は、特別展「100の光彩—近世ヨーロッパ絵画の軌跡—」に併せて開催した。

さらに、収蔵作品による企画展「目で感じる音」会期中に、ミュージアムコンサート「心を歌う弦楽器・和と洋の饗宴」を開催した。

実技講座は、陶芸、彫刻（塑造）、版画、金工、篆刻の5種5講座（延42日）を開催した。

図書は、164冊収集した。現在5,502冊を収蔵し、情報資料室において県民の利用に供している。

そのほか、友の会事業による実技講座3種13講座（延57日）、美術鑑賞の旅等をはじめ、博物館実習生の受け入れ（10大学13人）などに協力した。

<彫刻家有志作品>

- 1 青木三郎 山の大空 1980 青木三郎
- 2 石川 日 木と人 1981 石川 日
- 3 松本 孝 木と人 1981 松本 孝
- 4 二木 孝 木と人 1981 二木 孝
- 5 松本 孝 木と人 1981 松本 孝
- 6 松本 孝 木と人 1981 松本 孝
- 7 松本 孝 木と人 1981 松本 孝
- 8 松本 孝 木と人 1981 松本 孝
- 9 松本 孝 木と人 1981 松本 孝
- 10 松本 孝 木と人 1981 松本 孝

■ 美術講演会

特別展に因んで講演会を実施した。

講演会では特別展展覧作品のスライドを交えながら、裸体画、裸体像の作品をわかりやすく、その時代背景も含めながら話していただいた。

裸体画とは芸術の衣を着用したもののことで教養のあるひとが鑑賞することが一般的であること等、作品鑑賞のポイントを示していただき大変有意義な講演会であった。

6月24日（土）「ヨーロッパ絵画における
—伝統と変容—」

坂本 満 氏（聖徳大学教授）

参加者数 117人

■ 特別講演会

企画展「千代倉桜舟」展に因んで詩人・友人の立場から、宗左近氏による特別講演会を実施した。

講演会では宗左近氏の書家千代倉桜舟論、「ビッグバーンの体験を墨と筆によって再現する芸術家」について縄文土器の文様やDNAの形など具体的な形と関連させながら様々な視点から話していただいた。

書家の大胆、繊細、幽遠な作品がより身近に感じられる有意義な講演会であった。

1月13日（土）「千代倉桜舟の宇宙」

宗 左近 氏（詩人）

参加者数 226人

■ 音声ガイダンス

特別展「100の光彩」において、作品を鑑賞する補助器材として携帯用音声機器の導入を図り、解説内容を作成して吹き込み、会期中に展示室で利用に供した。

期 間 平成12年6月3日（土）～7月30日（日）
日数50日間

利用者数 1,107人

■ ミュージアムコンサート

●展覧会「目で感じる音」の開催中に、「心を歌う弦楽器・和と洋の饗宴」と題してニューフィルハーモニーオーケストラ千葉のメンバーによるコンサートを9月16日（土）に行った。

メンデルスゾーン（歌の翼に）、サンサーンス（白鳥の湖）などのクラシック曲や、八橋検校（乱）、宮城道雄（春の海）などの箏曲を演奏し、好評を得た。

演奏者

本庄篤子（ヴァイオリン）／舘野英司（チェロ）／伊藤元子（ハープ）／井上千恵子（箏・十七弦箏）／中里かほり（司会）

参加者数 196人

●展覧会「自然との対話」の開催中に、「自然と音楽の出会い」と題してニューフィルハーモニーオーケストラ千葉の弦楽アンサンブルによるコンサートを3月20日（火）に第8展示室で行った。

バッハ（G線上のアリア）、ヴィヴァルディ（四季より「春」「夏」）などのクラシック曲を作品と共に鑑賞し、好評を得た。

演奏者

本庄篤子（ヴァイオリン）／ニューフィル千葉弦楽アンサンブル／中里かほり（司会）

参加者数 513人

■ 実技講座

(1) 陶芸講座

期 日 平成12年5月11日・12日・13日
6月6日・7日・28日
(6日間/講師の指導日数は4日間)

講 師 古瀬 利治氏（受講者数30人）
内 容 焼成・絵付け・薬掛けなどの行程から用具の取り扱いや陶芸に関する基本的な技法を学習した。

(2) 彫刻講座

期 日 平成12年7月11日・12日・13日・14日・
18日・19日・25日・26日・27日・28日
(10日間/講師の指導日数は6日間)

講 師 福永 巨氏（受講者数18人）
内 容 塑造の学習を通して、立体作品の制作行程を理解し、幅広い表現方法を学習した。

(3) 版画講座

期 日 平成12年10月17日・18日・19日・
20日・26日・27日・31日・11月1日・
2日・3日
(10日間/講師の指導日数は5日間)

講 師 上野 適氏（受講者数26人）
内 容 単色・多色版画などの木版書の学習を通して、凸版書の基礎的な技法と版書の幅広い表現方法を学習した。

(4) 金工講座

期 日 平成13年1月23日・24日・25日・31日・
2月1日・2日・3日・6日・7日・8日
(10日間/講師の指導日数は6日間)

講 師 小林 正利氏（受講者数20人）
内 容 銅板レリーフと彫金の制作を通して各種工具の製作から取り扱いと基礎的な技法を学習した。

(5) 篆刻講座

期 日 平成13年2月16日・20日・21日・22日・
27日・28日
(6日間/講師の指導日数は4日間)

講 師 細谷 長生氏（受講者数19人）
内 容 手軽にできる石材彫刻を通して、篆刻の魅力を堪能し、篆刻の基本的な技法を学習した。

■ こども写生会

次代を担うこども達に、創作の喜びを体験してもらい、美術を愛好する心情と豊かな情操を養うことを目的とし、美術館とのふれあいを通して美術館活動への理解を深めてもらうため、写生会と展示による「こども写生会」を開催した。

昨年度から、この事業の基本的コンセプトを見直し、今までのような審査方式による展示会から、審査なしのオープン形式の展示会の具現化を図った。また、テーマ性を持ったイベントとして確立するために、「青い空！青い海！夏の千葉港スケッチ体験」という本事業の開催テーマを設置し、海に隣接する美術館らしく「海の日」に写生会を実施した。

開催に当たっては、本年度も、さくらクレパスの協賛と千葉港湾事務所の協力を頂き、当日の運営に寄与してくれたことも重要であった。

展示会については、「こどもの手による・こどものための展覧会」というテーマを掲げ、美術館近隣の中学校の生徒の協力を得、展示会場のデコレーション(会場装飾)を行った。

「海」をモチーフにした装飾を進めることにより、中学生の持つ豊かな感性(構合力)と、小学生の描いた自由に屈託のない作品とが合体した、非常に興味深い展示会となった。

会場装飾を担当した千葉市立新宿中学校の生徒も、今回が2回目の体験ということで、昨年度の経験を生かしながら、いきいきとした海のイメージを会場いっぱい表現してくれ、来館者の目を楽しませてくれた。

写生会 7月20日(木) 海の日
参加校 39校(内千葉市内21校)
参加者数 105人

写生会展 8月22日(火)～27日(日)
会場装飾担当校 千葉市立新宿中学校
有志2年生 11人参加

■スポーツと美～ こどもアートチャレンジ

こども達に、スポーツや美術を愛する心を育む機会とするため、千葉県スポーツ振興財団等との連携事業として、県総合運動場内の各種競技施設や周辺環境の素晴らしさを知ってもらうとともに、同運動場において写生会及び写生会展を開催した。

写生会当日は、前日からの雨にもかかわらず参加したこども達は、陸上競技場・武道館・体育館等で行われた「第42回健康・体力づくり運動推進全国大会」の様子や施設内外を自由にスケッチをして楽しんだ。

写生会 平成12年10月29日(日)
参加校 8校
参加者数 22人

写生会展 平成12年11月10日(金)～12月10日(日)
会場 千葉県スポーツ科学総合センター

■触れる美術展

県立千葉盲学校との共催により、五感(視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚)のうち触覚を前面に打ち出した展覧会を開催した。

視覚障害者にとっては、美術鑑賞の機会を、また晴眼者にたいしては日頃視覚に頼りがちな生活から、触覚を中心に五感を総動員して豊かな感性を取り戻す場として企画した。本館収蔵作品、本展覧会に協力された彫刻家有志の作品、並びに千葉県立千葉盲学校生徒の作品を展示し、ブロンズ、木、石、プラスチック、陶器等の異なった素材による個性豊かな造形の世界を肌で鑑賞していただくことができた。視覚障害者と晴眼者が共に学ぶ相互理解の場ともなった。

会 期 平成12年4月25日(火)～30日(日)
会 場 第6展示室
展示点数 28点
入場者数 2,260人

<生徒作品>

1	藤田明子	花を送る	1999	陶芸	高等部2年
2	乙部耕二	ハンドインハンド	"	"	"
3	香取洸司	水の器	2000	"	高等部3年
4	三上直人	未来へ	"	"	"
5	宮本正俊	とつとつのあるつぼ	1999	"	高等部2年
6	村田 創	アジアタワー	"	"	高等部1年
7	市原麻奈	ウクレレ	2000	"	中学部2年
8	安部和也	ピーマンを切った形	1999	"	"
9	土田 怜	岩に咲くバラ	"	"	中学部3年
10	荒原真紀	海の中のつぼ	"	"	"
11	中西良輔	おさる	"	"	小学部4年
12	大田実成子	とりのおやこ	"	"	"
13	安部里美	うま	"	"	"
14	鶴岡洋佑	ぞう	"	"	"
15	君塚純一	うさぎ	"	"	小学部2年
16	土井則博	畑ではたらくおばあちゃん	"	"	小学部5年

<彫刻家有志作品>

1	青木三四郎	お山の大将	1998	テラコッタ	
2	石橋 亘	ハッピーバース	1997	石	
3	上野弘道	孤独なユダ	1999	木	
4	神谷睦代	みのり	1997	ブロンズ	
5	渋谷三朗	とり	1999	木	
6	虎竹秀芳	ロマンチスト	1973	ブロンズ	
7	福永 巨	BOX CAT	1984	木	

<美術館収蔵作品>

1	池田丈一	ひねくれた正12面体	1987	木	
2	鈴木 章	七面鳥	1932	ブロンズ	
3	鈴木啓子	FEELING-69	1969	樹脂	
4	山崎英五	地を這うものどもⅢ	1978	石	
5	長谷川昂	朝	1979	木	
6	木村賢太郎	うごめくトルソーⅥ	1975	石	
7	中島幹夫	風の肖像	"	ブロンズ	
8	柳原義達	風の中の鴉	1984	"	
9	高田博厚	ロマンラン	1961	"	
10	佐藤忠良	ラップ帽	1982	"	

■ 1日学芸員体験学習

平成14年度より施行される新指導要領の趣旨を鑑み、本館と学校教育との連携を密にし、両者が一体となってこどもたちの造形教育に取り組む事業として実施した。

内容的に、学芸員という職業を理解する体験学習からより美術館らしい体験学習を味わってもらうために、主に3つの内容を中心に実施した。

THE 体験①【君も美術評論家！】

特別展から何かを感じよう！

特別展「100の光彩」の展示作品の1つを選択し感想等をまとめ発表した。

6月13日 千葉市立蘇我中学校 2年生5人

THE 体験②【君も美術評論家！】

野外彫刻から何かを感じよう！

本館の野外に設置してある彫刻を鑑賞し、興味があった作品を選び、その作品への「想い」をメッセージカードに書き留めるという学習を実施した。

最終的には、作家本人からも各個人が書き留めた内容に対するメッセージをいただくことができ変化のある体験学習となった。

11月16日 市原市立ちはら台南中学校 2年生8人

12月5日 千葉市立葛城中学校 2年生2人

THE 体験③【日本の伝統を学習しよう！】

—作品の扱い方体験—

「美術工芸品の扱い方」を中心にした内容で、使用した工芸品は立体と平面の代表として、壺・掛け軸を選び、各工芸品の扱い方について実際に取り組ませた。

11月16日 市原市立ちはら台南中学校 2年生8人

12月5日 千葉市立葛城中学校 2年生2人

その他

学芸員の仕事内容についてのインタビュー

6月12日 千葉市立蘇我中学校 1年生4人

情報資料室でレオナルド・ダ・ヴィンチについて調べ学習

11月15日 小見川町立小見川中学校 1年生6人

■ こどもワークショップ

美術館でしか味わえないエネルギーで躍動的な創作体験学習を通して、美術館活動への関心と興味を醸成し、こども達に親しまれる美術館の促進を図るため、こどもワークショップを開催した。なお、本年度は、平成12年度文部省委嘱事業「親しむ博物館づくり事業」の一環として実施した。

(1) 第1回こどもワークショップ

『発光スチロールオブジェの制作』

期 日 平成12年8月5日（土）

場 所 第7展示室

参加者数 県内小中学生29人

内 容 簡単に変形できる身近な素材でもある発光スチロールを自由に切り取り、立方体オブジェを制作し、オブジェの中から光をあて、立体照明オブジェを制作。

(2) 第2回こどもワークショップ

『絵の具で遊ぼう！ 色・色・エキサイティング』

期 日 平成12年8月26日（土）、9月3日（土）
9日（土）、10日（日）

場 所 県民アトリエ/第7展示室

参加人数 県内小学生24人

内 容 筆の表現では味わえない絵の具遊び（マープリング・デカルコマニー）を体験しながら、自動車にフリーペインティングする創作体験。

(3) 第3回こどもワークショップ

『みんなでコーディネートはこーでないと？』

期 日 平成12年11月11日（土）、12日（日）、
19日（日）、25日（土）

場 所 県民アトリエ

参加人数 県内小学生24人

内 容 段ボール箱で「迷路づくり」をする企画と木々端材を使ってみんなでコーディネートしながらツリーを作り上げる共同制作。

(4) 第4回こどもワークショップ

『オブジェ・デ・かどまつ』

期 日 平成12年12月9日（土）

場 所 県民アトリエ

参加人数 県内小中学生27人

内 容 従来のかどまつにとらわれないオブジェ的発想のかどまつを制作し日本の風習にもふれながら、日本の伝統の素晴らしさを体験。



■ 美術めぐりの旅

県内各地に残された古今の優れた美術品等を訪ねることにより、美術への興味、関心を深め、美術館の活動の充実化及び利用促進を図ることを目的として開催した。

平成13年2月23日（金）

—夷隅地方の古美術を訪ねる—

総南博物館、行元寺、飯縄寺、月の沙漠記念館

参加者数 34人

■ 情報資料室

毎週火～金曜日12時30分～4時30分、土・日曜日、祝日は9時～4時30分に開室し、県民の方々の美術情報資料（図書、雑誌、図録、新聞等）の利用に供した。また、各地の展覧会やイベントについて、資料室前のロビー等でポスター、チラシ、情報誌等により、美術情報を提供した。

なお、12年度の収蔵図書については24冊を購入し、140冊の寄贈を受け、美術情報資料の充実を図った。

分類別図書数

区 分	平成11年度まで	平成12年度	計
美 術 総 記	1,663	74	1,737
絵 画	1,545	35	1,580
彫 刻	254	9	263
工 芸	385	8	393
書 画	169	6	175
版 画	147	1	148
デザイン・建築	89	2	91
写 真・映像	194	1	195
そ の 他	50	0	50
雑誌(合冊・復刻)	357	0	357
一 般 図 書	485	28	513
合 計	5,338	164	5,502

区 分	平成11年度まで	平成12年度	計
購 入 図 書	2,942	24	2,966
寄 贈 図 書	2,396	140	2,536
合 計	5,338	164	5,502

(展覧会図録を除く)

■ 活動協力

□千葉県立美術館友の会

1. 目 的

“みる・かたる・つくる”という美術館活動に積極的に協力し、楽しい雰囲気の中かで、教養を豊かにし、美術文化の向上をはかり会員相互の親睦を深める。

2. 組 織

- (1) 会員数 個人会員 479人 賛助会員 2人
- (2) 役 員 名誉会員10人 会長1人 副会長3人
監事2人 理事若干名

3. 事 業

- (1) 友の会だより「しおさい」の発行、年4回。各1000部印刷し、会員に配付した。
- (2) 第25回葉美会展の開催
会期/平成12年9月5日(火)～10日(日)
出品者37人 展示点数79点
- (3) 秋の美術鑑賞の旅
美術品や文化財を訪ねながら、親睦を深めるために実施した。
 1. 日 時 10月12日(木)
 2. 行 先 世田谷美術館、静嘉堂文庫美術館、日本民家園、岡本太郎美術館
 3. 参加者数 43人
- (4) 館事業への協力
館に協力して、特別展等の図録販売・実技講座の開催のほか、講演会など県民アトリエ事業に積極的に参加した。

(5) その他

テレホンカード・絵葉書・額縁・額絵・図書等の販売

4. 平成12年度 友の会実技講座

洋画入門講座(1)

期 日 5/9(火)、11(木)、13(土)、16(火)、18(木)、20(土) (6日間)
講 師 根岸茂行氏 受講者数 33人

洋画入門講座(2)

期 日 6/6(火)、8(木)、9(金)、13(火)、17(土)、21(水) (6日間)
講 師 羽生智樹氏 受講者数 36人

洋画入門講座(3)

期 日 7/4(火)、6(木)、7(金) (3日間)
講 師 根岸茂行氏 受講者数 30人

洋画入門講座(4)

期 日 7/8(土)、11(火)、13(木) (3日間)
講 師 根岸茂行氏 受講者数 23人

洋画入門講座(5)

期 日 8/5(土)、6(日)、12(土)、13(日)、19(土)、20(日) (6日間)
講 師 池田敏男氏 受講者数 29人

洋画入門講座(6)

期 日 9/5(火)、6(水)、7(木) (3日間)
講 師 松沢茂雄氏 受講者数 32人

洋画入門講座(7)

期 日 9/12(火)、13(水)、14(木) (3日間)
講 師 松沢茂雄氏 受講者数 34人

洋画入門講座(8)

期 日 10/4(水)、5(木)、6(金) (3日間)
講 師 松沢茂雄氏 受講者数 39人

洋画入門講座(9)

期 日 11/14(火)、17(金)、18(土)、21(火)、23(木)、25(土)、23、25(写生) (6日間)
講 師 根岸茂行氏 受講者数 38人

日本画入門講座

期 日 9/15(金)、16(土)、17(日)、19(火)、20(水)、21(木) (6日間)
講 師 斉藤 惇氏 受講者数 14人

デッサン入門講座(1)

期 日 8/22(火)、23(水)、25(金)、27(日)、29(火)、30(水) (6日間)
講 師 御園正男氏 受講者数 19人

デッサン入門講座(2)

期 日 3/1(木)、3(土)、4(日) (3日間)
講 師 根岸茂行氏 受講者数 28人

デッサン入門講座(3)

期 日 3/6(火)、8(木)、10(土) (3日間)
講 師 根岸茂行氏 受講者数 29人

□博物館実習

各大学の依頼により、学芸員資格取得希望の学生を次のとおり受け入れた。

平成12年8月2日(水)～8月8日(火)
(日曜日を除く6日間)

跡見学園女子大学1人、学習院大学2人、実践女子大学1人、女子美術大学1人、千葉経済大学2人、千葉大学大学院1人、東海女子大学1人、東京工芸大学2人、日本女子大学1人、明治学院大学1人 (10大学、13人)

「千葉アートセレクション」

さわやかちば県民プラザからの依頼により、収蔵作品を紹介する展覧会を開催した。

会 期	平成12年10月17日(火)～10月29日(日) 13日間
会 場	さわやかちば県民プラザ 県民ギャラリー
主 催	さわやかちば県民プラザ
展示点数	42点
入場者数	1,335人
関連行事	解説会(10月24日)

<日本画>

1	加倉井 和夫	穀機	1967
2	酒井 亜人	晩秋	1952
3	杉原 元人	海花	1975
4	富取 風堂	花籠	1954
5	松尾 敏男	歷程	1984
6	吉岡 堅二	濤	1939

<洋画>

1	浅井 忠	薬屋根	1887頃
2	梅原 龍三郎	皇居	1980
3	黒田 重太郎	浴後	1927
4	小堀 進	逆光	1974
5	椿 貞雄	八重子像	1918
6	鶴田 吾郎	初秋	1921
7	中西 利雄	南仏風景	1930
8	不破 章	二女	1953
9	柳 敬助	婦人像	不詳
10	コ ロ ー	ナポリ近郊の思い出	1860～65頃
11	ドービニー	オワーズ川のほとり	1865
12	ク ー ル ベ	雪の中の小鹿	1869頃

<彫刻>

1	高村 光太郎	裸婦座像	1916頃
2	毛利 教武	手	1919

<工芸>

1	香取 秀真	烏銅鳳凰香炉	1912
2	〃	菊文釜	不詳
3	津田 信夫	一點玲瓏	1934
4	〃	胡孫遊目	1935
5	信田 洋	伸びゆく湾	1964
6	〃	夕映の甲斐の山々	1987
7	宮之原 謙	彩地盛蓮葉文壺	1955頃
8	〃	象嵌磁サボテン壺	1970

<書>

1	今関 脩竹	石山	1973
2	〃	白雪	1983
3	〃	若草山	1986
4	小暮 青風	天鵬	1966
5	〃	旅に病んで	1985
6	〃	天地茫々	1993

<版画>

1	浜口 陽三	うさぎ	1955
2	〃	ういきょう	1958
3	〃	ぴんとくるみ	1959
4	〃	白菜	1960
5	〃	トリコット	1962
6	星 襄一	雪の中で(K)	1960
7	〃	夜明け	1975
8	〃	青い一列	1976

☐[illegible]

（本館が所蔵する資料は、本館の所蔵品であり、その複製は、本館の許可を得る必要があります。）

資料一覧

調査・収集事業

展覧会企画や資料収集等に関連して、調査研究を進めた。資料収集については、日本画6点、洋画13点、工芸3点、書10点、版画40点、研究資料2点を収蔵した。この他、基金で洋画1点を収蔵した。

12	生田 宗	静寂の間	1975
13	生田 宗	どくろ・静物	1975
14	生田 宗	白の静物	1975
15	生田 宗	花の静物	1975
16	生田 宗	二つの子	1975
17	生田 宗	コタンゴロ	1975
18	生田 宗	しろつめ	1975
19	生田 宗	静と夜	1975
20	生田 宗	静	1975
21	生田 宗	静	1975
22	生田 宗	静	1975
23	生田 宗	静	1975
24	生田 宗	静	1975
25	生田 宗	静	1975
26	生田 宗	静	1975
27	生田 宗	静	1975
28	生田 宗	静	1975
29	生田 宗	静	1975
30	生田 宗	静	1975
31	生田 宗	静	1975
32	生田 宗	静	1975
33	生田 宗	静	1975
34	生田 宗	静	1975
35	生田 宗	静	1975
36	生田 宗	静	1975
37	生田 宗	静	1975
38	生田 宗	静	1975
39	生田 宗	静	1975
40	生田 宗	静	1975
41	生田 宗	静	1975
42	生田 宗	静	1975
43	生田 宗	静	1975
44	生田 宗	静	1975
45	生田 宗	静	1975
46	生田 宗	静	1975
47	生田 宗	静	1975
48	生田 宗	静	1975
49	生田 宗	静	1975
50	生田 宗	静	1975
51	生田 宗	静	1975
52	生田 宗	静	1975
53	生田 宗	静	1975
54	生田 宗	静	1975
55	生田 宗	静	1975
56	生田 宗	静	1975
57	生田 宗	静	1975
58	生田 宗	静	1975
59	生田 宗	静	1975
60	生田 宗	静	1975
61	生田 宗	静	1975
62	生田 宗	静	1975
63	生田 宗	静	1975
64	生田 宗	静	1975
65	生田 宗	静	1975
66	生田 宗	静	1975
67	生田 宗	静	1975
68	生田 宗	静	1975
69	生田 宗	静	1975
70	生田 宗	静	1975
71	生田 宗	静	1975
72	生田 宗	静	1975
73	生田 宗	静	1975
74	生田 宗	静	1975
75	生田 宗	静	1975
76	生田 宗	静	1975
77	生田 宗	静	1975
78	生田 宗	静	1975
79	生田 宗	静	1975
80	生田 宗	静	1975
81	生田 宗	静	1975
82	生田 宗	静	1975
83	生田 宗	静	1975
84	生田 宗	静	1975
85	生田 宗	静	1975
86	生田 宗	静	1975
87	生田 宗	静	1975
88	生田 宗	静	1975
89	生田 宗	静	1975
90	生田 宗	静	1975
91	生田 宗	静	1975
92	生田 宗	静	1975
93	生田 宗	静	1975
94	生田 宗	静	1975
95	生田 宗	静	1975
96	生田 宗	静	1975
97	生田 宗	静	1975
98	生田 宗	静	1975
99	生田 宗	静	1975
100	生田 宗	静	1975

■ 収蔵資料一覧

(寸法は、平面作品は縦×横、立体作品は高さ×幅×奥行で表示)
単位はcm、番号に○印のあるものは購入。

<日本画>

1	石川 響	化石の渚	1975	紙・着彩	227	×	207
②	時田 直善	春野/三部作	1937	絹・着彩	208.4	×	208.4
3	時田 直善	望洋	1939	紙・着彩	219	×	340
4	西村 昭二郎	うずくさせいらん	1964	紙・着彩	162	×	260
5	西村 昭二郎	草の鳥	1967	紙・着彩	137	×	219
6	西村 昭二郎	鴨わたる	1973	紙・着彩	137	×	328

<洋画>

1	石井 柏亭	印度洋上	1911	紙・鉛筆・着彩	38	×	28
2	遠藤 健郎	バリの森の女達	1998	キャンバス・油彩	145.5	×	112
3	遠藤 健郎	ケチャックの踊り(バリ島)	1998	キャンバス・油彩	130.3	×	162
④	国松 伽耶	教会		キャンバス・油彩	73	×	61
5	国松 伽耶	自画像	1949	キャンバス・油彩	41	×	31.8
⑥	国松 伽耶	おんどり	1951	キャンバス・油彩	130	×	97.7
⑦	国松 伽耶	魚	1954	キャンバス・油彩	91.3	×	116.7
8	国松 伽耶	二つの椅子	1956	キャンバス・油彩	91.3	×	115.4
9	国松 伽耶	青い工場	1958	キャンバス・油彩	95.6	×	121
10	富田 通雄	卓による女	1948	紙・水彩	54.5	×	36
11	富田 通雄	林梢	1956	紙・水彩	94	×	126.5
12	富田 通雄	パリ モンマルトルの丘	1963	紙・水彩	67.5	×	103
13	山本 不二夫	赫い道	1971	キャンバス・油彩	162	×	130.3

<工芸>

1	津田 永寿	喜心	1998	鍍金	35	×	25	×	10.5
②	土肥 刀泉	辰砂菊花花瓶		陶器	31.5	×	16.8	×	16.8
③	山本 正年	釉彩彫文飾皿兼盛皿	1950頃	陶器	3.4	×	32.7	×	23.8

<書>

1	揚石 舒雁	変奏二種	1998	紙・墨	186.6	×	154.9
2	千代倉 桜舟	かの子のうた		紙・墨	131	×	35.5
3	千代倉 桜舟	ヘリオトロープの花は	1949	紙・墨	133	×	65
4	千代倉 桜舟	蕪村の句	1953	紙・墨	34	×	47.5
5	千代倉 桜舟	デスバレイ詩	1972	紙・墨	137.5	×	146
6	千代倉 桜舟	心平英文詩	1975	紙・墨	33	×	25.5
7	千代倉 桜舟	星野立子の俳句	1980	紙・墨	117	×	117
8	千代倉 桜舟	玉沙の書	1987	紙・砂	179	×	182
9	千代倉 桜舟	左近の詩	1994	紙・墨	51.5	×	80
10	千代倉 桜舟	地球島	1999	紙・墨	231	×	51

<版画>

①	生田 宏司	Life again stone II	1985	紙・銅版	45.5	×	61
②	生田 宏司	Glass&water	1986	紙・銅版	7.5	×	7.5
③	生田 宏司	Paper entwined in wood	1987	紙・銅版	36.5	×	66
④	生田 宏司	Life again Leaves	1987	紙・銅版	5	×	5
⑤	生田 宏司	Leaves entwined in wood	1988	紙・銅版	45.5	×	68
⑥	生田 宏司	Entwinement	1989	紙・銅版	45.5	×	68
⑦	生田 宏司	Paper entwined in wood 891	1989	紙・銅版	10	×	10
⑧	生田 宏司	Paper entwined in wood 892	1989	紙・銅版	10	×	10
⑨	生田 宏司	金魚鉢・もう一つの金魚鉢	1991・1992	紙・銅版	各 22.5	×	12
⑩	生田 宏司	雨がえる	1992	紙・銅版	20	×	8.5
⑪	生田 宏司	桜	1995	紙・銅版	17	×	36.5

12	生田 宏司	静寂の間	1995	紙・銅版	36.5	×	69
13	生田 宏司	ざくろ・静物	1995	紙・銅版	17	×	36.5
14	生田 宏司	仙宮の白臍	1995	紙・銅版	68	×	45.5
15	生田 宏司	朝摘みの花だいこん	1996	紙・銅板	35.5	×	16.5
16	生田 宏司	二羽の子臍	1997	紙・銅板	17	×	36.5
17	生田 宏司	コタンコルカムイ	1997	紙・銅版	68	×	45.5
18	生田 宏司	しろつめ草	1997	紙・銅版	13	×	13
19	生田 宏司	猫と夜猫子	1998	紙・銅版	17	×	26.5
20	生田 宏司	花園	1999	紙・銅版	15	×	23.5
②①	生田 宏司	風	1999	紙・銅版	36.5	×	69
②②	生田 宏司	白福老滝図	1999	紙・銅板	45	×	26
23	生田 宏司	猫と猫頭鷹	1999	紙・銅版	17	×	36.5
②④	生田 宏司	松虫草	1999	紙・銅板	10	×	7.5
25	金子 周次	松林		紙・木版	30	×	43
26	金子 周次	犬吠灯台		紙・木版	20	×	11.3
27	金子 周次	石垣の家・外川		紙・木版	16	×	30.5
28	金子 周次	犬若浦釣手晩夏		紙・木版	28	×	36
29	金子 周次	宵待草		紙・木版	23.5	×	33
30	金子 周次	物見梯子のある風景		紙・木版	29.5	×	44
31	金子 周次	川口風景	1968	紙・木版	29.5	×	44.8
③②	多賀 新	瞳<ユニコーン>	2000	紙・銅版	18	×	28
③③	多賀 新	スフィンクス<土方 巽氏に捧ぐ>	2000	紙・銅版	30	×	44
③④	野田 哲也	Diary:Aug.9th'81 to Nakatsugawa	1981	紙・シルクスクリーン・木版	44.5	×	64
③⑤	野田 哲也	Diary:May 7th '86 in Nara	1986	紙・シルクスクリーン・木版	56.5	×	86
③⑥	ヘレン・ハイド	雨の夜	1906	紙・銅版	29	×	12.7
③⑦	ヘレン・ハイド	家路	1907	紙・木版	39	×	21
③⑧	ヘレン・ハイド	東京の元旦	1914	紙・木版	21.3	×	44.8
③⑨	利 渉 重雄	光の息	1991	紙・銅版	59.5	×	36
④⑩	利 渉 重雄	晨への旅	1998	紙・銅版	45	×	59.5

<研究資料>

- 1 富取 風堂 スケッチブック等一式
- 2 万祝型紙一式

<基金>

- 1 ギュスターヴ・クールベ 嵐 1865頃 キャンバス・油彩 60.6 × 90.9

◆収蔵資料数一覧

平成13年3月31日現在

種別	受入方法	購入	寄附	保管換	合計
日本画		128	154	25	307
洋画		349	431	42	822
彫刻		82	25	11	118
工芸		149	125	10	284
書		110	122	14	246
版画		175	75	5	255
合計		993	932	107	2,032
研究資料		244	1,243	53	1,540

管 理 運 營

本館では県民のための開かれた明るい美術館をめざし“みる・かたる・つくる”をモットーとして、総合的・活動的な美の広場を目標として展示・普及活動を行っている。

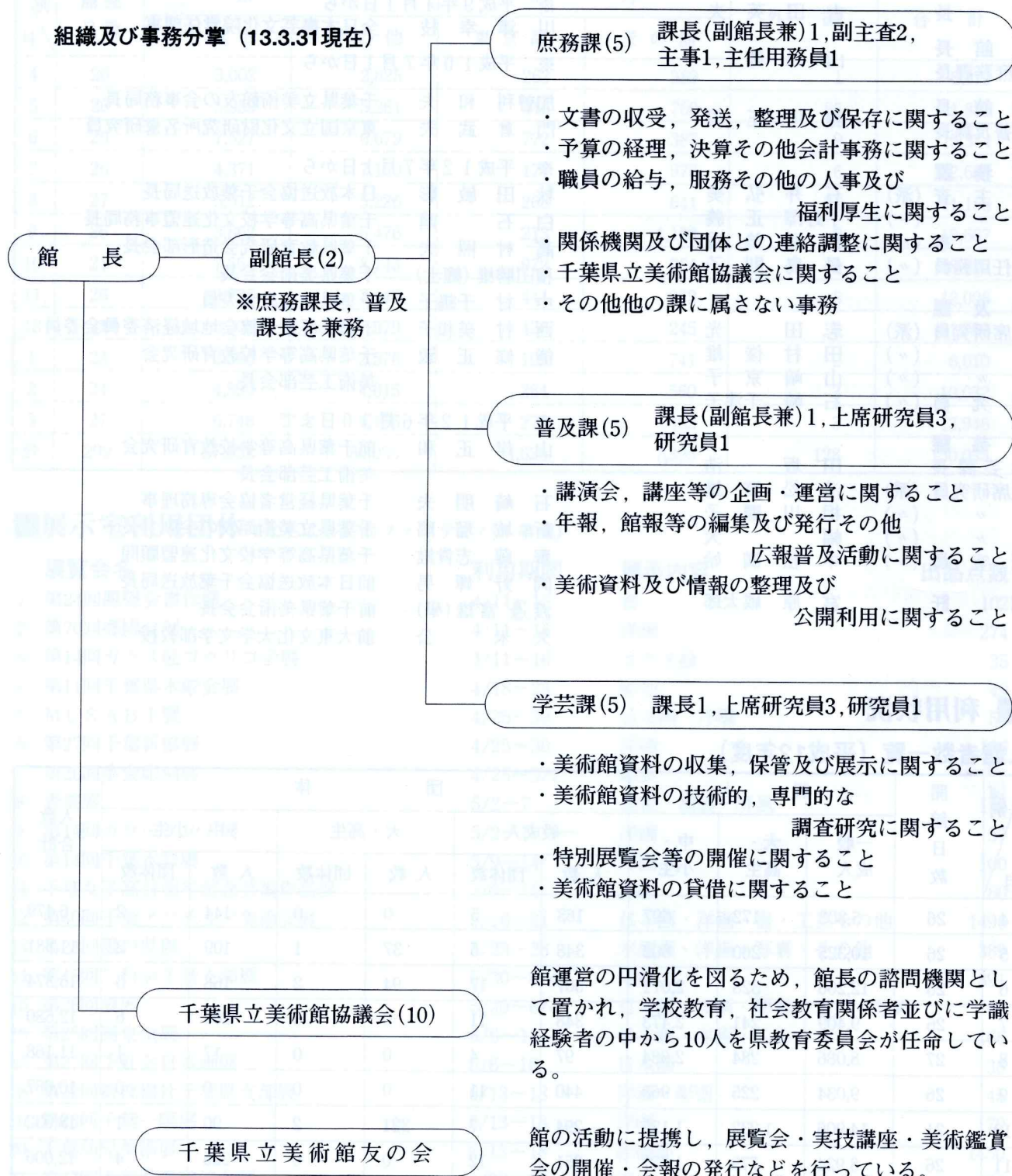
協議会では、美術館の運営について諮問を行った。

運 營 方 針

県民のための美術館として、明るい親しまれる美術館。学校教育・社会教育との関連から教育普及活動を重視し、楽しく学べる美術館。県民と美術家との交流の場とし、相互の理解と向上を図る美術館。房総の地にかかわりのある美術家の作品と関係資料の収集・研究を目指す美術館。美の広場として、広く美術資料・情報等を収集し、“みる・かたる・つくる”活動を総合的に展開する美術館。

■ 機 構

組織及び事務分掌（13.3.31現在）



■ 平成12年度職員

館 長	吉 田 英 夫
副 館 長	山 口 壽 一
兼庶務課長	
副 館 長	藤 川 正 司
兼普及課長	
庶 務 課	
副 主 査 (派)	石 井 弘 美
〃 (〃)	宇野澤 正義
主 事 (〃)	松 嶋 美 香 子
主任用務員 (〃)	長 島 則 子
普 及 課	
上席研究員 (派)	志 田 光
〃 (〃)	田 村 俊 雄 子
〃 (〃)	山 崎 京 子
研 究 員 (〃)	石 崎 千 津 子
学 芸 課	
学芸課長	田 坂 浩
上席研究員 (派)	濱 松 繁 雄 子
〃 (〃)	相 川 順
〃 (〃)	幅 大 始
研 究 員 (〃)	中 松 満
嘱 託	宮 原 咸 太 郎

■ 県立美術館協議会委員 (順不同)

※ 平成9年4月1日から	
川 津 幸 枝	全日本書芸文化院常任理事
※ 平成10年7月1日から	
加曾利 和 夫	千葉県立美術館友の会事務局長
門 倉 武 夫	東京国立文化財研究所名誉研究員
※ 平成12年7月1日から	
秋 田 敏 彰	日本放送協会千葉放送局長
白 石 靖	千葉県高等学校文化連盟事務局長
高 村 照 夫	千葉県教育研究会造形部会長
積田勝雄 (鯉士)	千葉県美術会会長
中 村 千鶴子	千葉県社会教育委員
西 村 美和子	千葉県経営者協会地域経済委員会委員
能 條 正 敏	千葉県高等学校教育研究会 美術工芸部会長
※ 平成12年6月30日まで	
山 岸 正 和	前千葉県高等学校教育研究会 美術工芸部会長
石 崎 朋 夫	千葉県経営者協会専務理事
新 城 瑠 璃	千葉県立美術館友の会副会長
齊 藤 志 貴 雄	千葉県高等学校文化連盟顧問
岡 野 輝 男	前日本放送協会千葉放送局長
渡 邊 富 雄 (學)	前千葉県美術会会長
久 米 公	前大東文化大学文学部教授

■ 利用状況

入館者数一覧 (平成12年度)

種別 月	開館 日数	個 人			団 体						人数 合計
		一般 成人	大・ 高生	中・ 小生	一般成人		大・高生		中・小生		
					人 数	団体数	人 数	団体数	人 数	団体数	
4	26	5,303	172	697	163	5	0	0	144	2	6,479
5	26	10,325	260	802	348	5	37	1	109	2	11,881
6	26	12,206	328	2,071	507	17	94	2	168	3	15,374
7	26	9,409	241	2,473	348	11	0	0	209	6	12,680
8	27	8,086	284	2,684	97	4	0	0	17	1	11,168
9	26	9,034	225	968	440	11	0	0	0	0	10,667
10	21	14,906	1,232	1,135	294	7	321	2	90	1	18,032
11	26	8,924	779	1,727	351	12	0	0	225	4	12,006
12	21	13,739	96	7,736	119	4	0	0	70	2	21,760
1	23	5,371	161	267	211	4	0	0	0	0	6,010
2	24	7,756	326	1,724	82	3	0	0	144	2	10,032
3	27	12,003	342	1,362	110	3	0	0	129	2	13,946
計	299	117,116	4,446	23,646	3,070	86	452	5	1,305	25	150,035

開館以来 総開館日数 7,725日 総入館者数 4,494,390人

地域別入館者数

種別 月	開館 日数	県内		県外		外国	合計
		千葉市	その他	東京都	その他		
4	26	3,002	2,825	262	389	1	6,479
5	26	5,359	5,261	446	760	55	11,881
6	26	7,527	6,679	772	387	9	15,374
7	26	4,371	7,150	177	976	6	12,680
8	27	5,012	5,226	268	641	21	11,168
9	26	3,862	5,476	213	1,108	8	10,667
10	21	7,554	8,743	972	754	9	18,032
11	26	3,737	7,447	444	372	6	12,006
12	21	3,505	17,579	426	245	5	21,760
1	23	2,586	2,576	105	741	2	6,010
2	24	4,590	4,615	264	560	3	10,032
3	27	6,748	6,456	277	462	3	13,946
計	299	57,853	80,033	4,626	7,395	128	150,035

■展示室利用団体 (太字は県芸術フェスティバル事業)

展覧会名	利用期間	展示内容	出品点数
1 第24回鳳聲会書作展	4/11～16	書	102
2 第70回郷陽会展	4/11～16	洋画	274
3 第14回ガラス絵コクリコ会展	4/11～16	ガラス絵	35
4 第11回千葉県木彫会展	4/18～23	彫刻	49
5 M U S A B I 展	4/25～30	日本画・洋画	53
6 第27回千葉新協展	4/25～30	洋画	106
7 第26回歩会彫刻展	4/25～5/7	彫刻	57
8 表美展	5/2～7	表装・額装・屏風	115
9 第14回カラーダスト展	5/2～7	洋画	57
10 第14回千葉水彩展	5/9～14	洋画	100
11 千葉女子高百周年記念芸術作品展	5/9～14	洋画	80
12 第40回千葉アマチュア美術会展	5/16～21	日本画・洋画・書・工芸その他	1496
13 第24回墨の県展	5/23～28	水墨画・洋画・写真・その他	389
14 第45回二科会千葉支部展	5/30～6/4	洋画	891
15 第26回猿展	5/30～6/4	日本画・洋画・彫刻・工芸・写真	62
16 第25回関東全展	6/6～11	日本画・洋画・工芸	166
17 第27回千虹会日本画展	6/6～18	日本画	38
18 第22回新槐樹社千葉県支部展	6/13～18	洋画・彫塑	45
19 第23回千葉一陽展	6/13～18	洋画	170
20 千葉幼児美術展	6/13～18	絵画他	1450
21 第47回千葉県書道協会展	6/20～25	書	496
22 第15回日本画四季展	6/20～7/2	日本画	56
23 第28回水彩連盟千葉支部展	6/27～7/2	洋画	65
24 〈明日を拓く〉教育美術展	6/27～7/2	洋画・立体	2250
25 精鋭展	6/27～7/2	洋画	200
26 第44回千葉県小中学校書写展	7/4～9	書	1000
27 第45回千葉二紀会展	7/4～9	洋画	100
28 第32回千葉市水墨画同好会連合会展	7/11～23	水墨画	419
29 第29回写真千葉県展	7/25～8/6	写真	1492

30	第103回習美会初夏大作展	7/25～30	日本画・洋画・その他	97
31	第16回記念日本水彩画会千葉県支部展	7/25～30	洋画	75
32	第34回漱雲会全国書道展	7/25～30	書	420
33	2000第一美術協会千葉県支部展	8/1～6	洋画・工芸	123
34	第14回白亜美術協会千葉支部展	8/1～6	洋画	43
35	第38回新世紀千葉支部展	8/15～20	彫刻	65
36	第10回太平洋美術会千葉支部展	8/15～20	洋画・彫刻・工芸	253
37	第30回いてふ会彫刻展	8/15～27	彫刻	56
38	第20回日本春秋書院千葉書連展	8/22～27	書	99
39	第17回「美しい郷土」絵画コンクール優秀作品展	8/22～27	絵画	684
40	第40回白扇書道会展	8/29～9/3	書	5890
41	等廻会千葉県支部展	9/5～10	洋画	61
42	第33回千葉県高校芸術祭「合同写真展」	9/5～10	写真	475
43	葉美会展	9/5～10	日本画・洋画・写真	77
44	中央美術協会千葉支部第17回展	9/12～17	日本画・洋画	75
45	第30回新構造千葉支部展	9/12～17	洋画・彫刻・工芸・写真	144
46	ダネラ展	9/12～17	工芸	53
47	第32回ファンシー洋画展	9/19～24	洋画	75
48	第27回文化書道千葉県連合会公募展	9/19～24	書	362
49	第23回千葉県写真展	9/19～10/1	写真	160
50	第50回デザインフェスタCHIBA展	9/26～10/1	デザイン	103
51	第47回千葉県勤労者美術展	9/26～10/1	洋画・書・写真	186
52	第11回千葉県教育芸術祭	10/3～9	日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真他	864
53	第20回二科会写真部千葉支部展	10/3～9	写真	80
54	第52回千葉県美術展（県展）	10/14～11/5	日本画・洋画・彫刻・工芸・書	2808
55	千葉県高校芸術祭「美術工芸書道作品展」	11/8～19	洋画・彫刻・デザイン・工芸・書・他	2956
56	第32回千葉現展	11/21～26	日本画・洋画・デザイン・工芸・写真	103
57	日本武道館武道学園書道展	11/21～26	書	58
58	第18回明るい社会づくりポスターコンクール展	11/21～26	絵画	1100
59	第45回こども県展	11/28～12/10	絵画	8778
60	富士百景写真展	1/5～8	写真	88
61	第36回登龍社書初展	1/5～8	書	304
62	第17回千葉県医師会美術展	1/16～21	日本画・洋画・彫刻・写真・工芸・書	143
63	群鴉書人展	1/30～2/4	書	54
64	第16回書星選抜展	1/30～2/4	書	237
65	海からのメッセージー漁師たちの展覧会	1/30～2/4	洋画・工芸・書・写真	64
66	千葉日報書道展	2/6～12	書	420
67	第53回千葉県小中高校書き初め展	2/14～18	書	680
68	第26回子ども造形展	2/14～18	絵画・彫刻・デザイン・立体	1500
69	千葉県立幕張総合高校書道部校外展	2/14～18	書	112
70	千葉大学教育学部美術科図工科卒業制作展	2/20～25	洋画・彫刻・デザイン・工芸・立体	23
71	千葉大学教育学部第34回学生書道展	2/20～25	書	112
72	千葉県建設業協会文化作品展	2/20～25	日本画・洋画・工芸・書・写真	147
73	第30回千葉県大学美術連盟展	2/27～3/4	日本画・洋画・工芸・書・写真	38
74	第12回日本童謡の書展	2/27～3/4	書	6804
75	第6回翔洋展	3/6～11	洋画	44
76	第26回千葉県民写真展	3/6～11	写真	516
77	和洋女子大学卒業展	3/6～11	書	40
78	第4回平成美術会展	3/13～18	洋画	271
79	第24回唱和会書展	3/13～18	書	161
80	第47回書星教育部展	3/20～25	書	546

施 設

この建物は、幾つかの建設候補地の中から、千葉港に隣接した臨海埋立地の一角に計画された。計画着手当時はこの付近は訪れる人も少なく、海を通して石油基地のタンク群や工場と煙を吐き出す煙突が望める環境であった。

このような当初の環境下で、空気汚染、降下煤塵そして塩害など、建物に与える悪影響が予測されるために、材料の選択、構法、空調計画等は十分な検討がなされた。以下、主な部分について記す。

外壁の打込みタイル・先積ブリック構法

従来の外壁をコンクリートで表現している建物とは異なり、珪石質タイルを型枠代にしてコンクリートを一体に打ち込む構法を用いた。

使用したタイルは従来の断面と異なり、コの字型の断面をしており、型枠にセットせずモルタルにて積上げられるように見込み寸法を5cmの厚みにしてある。

施工方法は、内型枠、配筋工程の次のタイルを積み5段毎に型枠のホームタイを通し、2,400mm程度まで積み上げ単管にて固定する。この2,400mmの高さは、設計段階での試作実験にて安全を確認した数値である。試作段階での支保工は、縦方向に角材を400ピッチに通し、横方向に単管を480ピッチに通し固定したが、施行時は、縦方向に単管を480ピッチに通して固定した。コンクリートの打設は、1.5m～2.0m/hの速度を目標に行い、ポンプにて打設可能な程度までスランブを下げた。この工程を繰返しタイル壁面を構成していった。

タイル面の施工時の汚れ防止には、ふのりを塗布した。タイルの目地は積み上げる工程で仕上げられ、表面に表われない目地の空隙にコンクリートのノロが滲み込んでゆき、目地からの滲透水を防ぎ満足する状態に仕上がった。

屋根の天然スレート

前述のような環境のもとで、勾配屋根に適し、十分にもちこたえられる材料としては耐候性鋼等が考えられたが、調査の結果により天然スレートを使用した。

空調計画

計画当初より、良好とはいえない外部環境から美術品をいかに保護するかが、海浜に建つ美術館として、ひとつの重要なテーマだった。外気取入れは、内部に自動巻取りフィルター、中性能フィルター、脱臭フィルターの3種類の空気清浄フィルターを組込んだ外気処理器を通して供給されている。

展示棟はCAV（定風量型）＋VAV（可変風量型）方式により計画されている。わが国の美術館は、平常の館内利用者に対して特別展や団体展等のときに非常に利用者がふえて、発熱負荷の変動が大きくなる。VAV方式は、こういった条件に対して非常に効果的であるといえる。

管理棟は、エネルギーの省力化にも役立つVAV方式を採用し、収蔵庫は、露点再熱制御方式により二つの条件の

異なる収蔵庫を2台の空調機で空調されている。

照明計画

展示壁面は、自然光源と人工光源とにより全体計画されている。

自然光源は展示棟の高窓から取り入れられ、外部の溝型ガラスと内部の紫外線吸収のアクリル拡散板を経て壁面に達する。しかし、太陽直射光の鉛直面照度は8時から15時の間で10%の時間が80,000lx以上、30%の時間が50,000lx以上、50%の時間が25,000lx（平均）以上、90%の時間が5,000lx以上という測定値があり、また水平面照度にしても50,000lx（薄暗）から5,000lx（曇天）の範囲と非常に明るい。このように必要以上に明るい光源は、調光通路内に設けられた2枚の電動スクリーン（これは、計算値により鉛直面照度60,000lx以上の条件のとき必要な枚数で、それぞれ異なった透過率を有する布を使用した）にて基準の壁面照度になるよう調光される。

計算値による透過率をもつクロスでの何回かの現場実験の結果、クロスは白地のポリエステル（透過率53.6%）と黒地のジョーゼット（透過率35%）の2枚を採用した。ここで留意すべき点は、クロスの遮光性能を良くするために、厚地の布や、コーティングされた布を使用すると壁面に色がつくことがある。壁面の照度分布の状態は、視覚的に均一な壁面が確保できた。

曇天・雨天に対しては、蛍光灯と白熱灯を補助照明として設置した。蛍光灯と白熱灯を併用したのは、演色性を高めるためである。

第1、2展示室は、すべて蛍光灯と白熱灯による人工光源で計画されている。壁面照度は、最高200lxに押えてある。

固定ケースは基準照度を180lxに設定した。照明方法は、全面アルミルーバーの天井ふところに蛍光灯を2本並列させ、その間に白熱灯2個を配置した。

〈設計及び工事監理者〉

大高建築設計事務所

〈施工者〉

建築：（株）竹中工務店

設備：空調＝東洋熱工業（株）

衛生＝第一管工事（株）

電気＝関東電気工事（株）

備品：天童木工、山口木工、佐々木ブラインド

〈都市計画地域指定〉

用途地域：準工業地域

〈規模・面積〉

敷地面積	33,057.87㎡
建築面積	8,777.94㎡
延床面積	10,663.57㎡
展示棟	6,343.02㎡
管理棟	2,818.89㎡
県民アトリエ棟	1,501.66㎡
駐車台数	97台

〈工期及び建設経費〉

(1) 第1期工事(展示棟) 5, 194.59㎡
(建築面積5, 102.35㎡)

○工 期 昭和47年9月20日～昭和49年3月31日

工事費 775, 967千円

本体工事 425, 230千円

電気設備工事 79, 663千円

空調設備工事 166, 493千円

給排水衛生設備工事 28, 995千円

外溝工事 67, 705千円

ガス工事 7, 881千円

(2) 第2期工事(管理棟) 2, 274.60㎡
(建築面積1, 089.50㎡)

○工 期 昭和50年3月1日～昭和51年2月20日

工事費 453, 800千円

本体工事 307, 500千円

電気設備工事 30, 000千円

空調設備工事 79, 000千円

給排水衛生設備工事 19, 514千円

外溝工事 17, 786千円

(3) 第3期工事(県民アトリエ) 1, 501.66㎡
(建築面積1, 449.34㎡)

○工 期 昭和54年3月22日～昭和55年2月29日

工事費 370, 000千円

本体工事 265, 300千円

電気設備工事 35, 000千円

空調設備工事 56, 200千円

給排水衛生設備工事 13, 500千円

○工 期 昭和55年12月25日～昭和56年3月24日

工事費 8, 000千円

外溝工事 8, 000千円

(4) 第4期工事(第8展示室1, 148.43㎡
収蔵庫544.29㎡) 1, 692.72㎡
(建築面積1, 136.75㎡)

○工 期 昭和62年7月11日～昭和63年8月31日

工事費 747, 500千円

本体工事 476, 000千円

電気設備工事 81, 000千円

空調設備工事 171, 000千円

給排水衛生設備工事 19, 500千円

総工事費 2, 355.267千円

工期別面積一覧

区分	地階	1階	2階	塔屋	合計
第1期	325.04	4,750.79	61.00	57.76	5,194.59
第2期	—	1,185.10	1,089.50	—	2,274.60
第3期	—	1,403.15	98.51	—	1,501.66
第4期	15.46	1,132.97	544.29	—	1,692.72
合計	340.50	8,472.01	1,793.30	57.76	10,663.57

〈概要〉

建物

【階数】

地下1階, 地上2階, 塔屋1階建

【高さ】

基礎底: GL-5.00m

高 さ: GL+15.20m

【構造】

主体構造: 鉄筋コンクリート造

屋 根: 鉄骨造

主鋼材: S S 4 1 及び高張力鋼

コンクリートの種類

A種・普通コンクリート(基礎・地中梁・1階スラブ)

$F_c=210\text{kg}/\text{cm}^2$

B種・軽量コンクリート(梁・スラブ用・地上部)

$F_c=300\text{kg}/\text{cm}^2$

C種・軽量コンクリート(地上部躯体でA B以外の
梁・壁など) $F_c=240\text{kg}/\text{cm}^2$

〈設備〉

【電気設備】

受 電 方 式: 交流3相3線式6, 000V 50Hz

電話交換方式: 64回線デジタル交換機方式

【空調設備】

展示棟=C A V (定風量型)+V A V (可変風量型)方式

管理棟=V A V方式

保管庫=露点再熱制御方式

県民アトリエ棟=各室ハンドリング方式

熱 源: 空気熱源スクリュウ熱回収ヒートポンプ方式

【衛生設備】

給 水: ポンプ圧送方式, 引込み管径75mm

排 水: 汚水・雑排水合流方式系統(管径300), 雨水系
統(管径300)別, 公設本管へ放流

【防災設備】

排煙方式: 自然排煙, 機械排煙(第1, 2, 7展示室)

消化方式: 屋外・屋内消化栓, 不燃性ガス消化設備(ハロ
ゲン1301)

自家発電: ディーゼル機関直結交流発電機, 定格出力
100kVA

火災報知設備: P型1級自動火災報知設備

【その他の設備】

防犯設備: I T Vカメラ設備, 防犯警報装置

昇降機設備: 荷物用エレベーター

規 模: 容量3, 000kg,

カゴ内法=3, 000mm×3, 000mm×3, 000mm,
速度30m/min

展 示 棟

玄関ホール	102.40㎡
クローク	91.80㎡
倉庫 A	2.70㎡
〃 B	〃
第 1 展示室	437.76㎡
〃 2	400.32㎡
〃 3	469.08㎡
〃 4	403.20㎡
〃 5	824.19㎡
〃 6	330.58㎡
〃 7	566.56㎡
〃 8	864.61㎡
食堂	119.52㎡
厨房	36.00㎡
従業員控室	17.28㎡
食堂ホール	49.20㎡
ミュージアムショップ	12.00㎡
ロビー	335.52㎡
第 1 休憩室	23.04㎡
〃 2	〃
〃 3	〃
便所 A	30.24㎡
〃 B	23.76㎡
身障者用便所	7.92㎡
コントロール室	20.16㎡
フィルター室	28.92㎡
工作室	31.00㎡
発電気室	25.00㎡
電気室	123.20㎡
ポンプ室	76.80㎡
機械室	305.20㎡
機械室(新)	283.82㎡
高架水槽室	11.46㎡
E. V 機械室	27.28㎡
E. V 廻り	54.56㎡
ダクトスペース	35.68㎡
廊下等	123.48㎡

計 ① 6,343.02㎡

管 理 棟

(1 階)	
第 2 会議室	22.62㎡
更衣室	14.38㎡
医務室	21.18㎡
書庫	22.02㎡
警備員室	43.59㎡
第 1 会議室	20.15㎡
倉庫	7.19㎡
湯沸室	5.19㎡
便所	24.54㎡
宿直室	34.20㎡
物置	9.92㎡
用務員室	31.83㎡
査備室・資料室	520.68㎡
消毒室	31.79㎡
資料倉庫	124.25㎡
荷解梱包室	52.67㎡
荷扱人室	21.94㎡
機械室	51.74㎡
廊下等	123.97㎡

小 計 1,183.85㎡

(2 階)

館長室	33.27㎡
副館長室	23.42㎡
第 1 応接室	14.67㎡
第 2 応接室	14.55㎡
庶務課室	112.34㎡
会議室	43.84㎡
学芸課・普及課室	195.32㎡
学芸相談室	23.91㎡
研究工作室	216.49㎡
写真スタジオ	54.30㎡
器材室	6.74㎡
暗室	12.19㎡
第 1 収蔵室	184.40㎡
〃 2	42.81㎡
〃 3	544.29㎡
E. V 前室	16.39㎡
便所	21.50㎡
湯沸室 A	3.24㎡
〃 B	6.87㎡
廊下等	60.94㎡
ダクトスペースその他	3.56㎡

小 計 1,635.04㎡

計 ② 2,818.89㎡

県民アトリエ棟

1 F 機械室	25.92㎡
講堂倉庫	8.64㎡
講堂	259.24㎡
コントロール室	30.33㎡
ホール側便所	29.97㎡
情報資料室	172.77㎡
情報資料室倉庫	4.70㎡
事務室	22.76㎡
研修室	74.70㎡
研修室倉庫	4.23㎡
第 1 アトリエ	155.70㎡
〃 2	184.31㎡
〃 3	95.47㎡
アトリエ側便所	20.77㎡
荷解室	25.65㎡
窯場	27.17㎡
窯場倉庫	6.66㎡
ホールその他	352.67㎡

計 ③ 1,501.66㎡

合 計 10,663.57㎡

(①+②+③)

<参考>

* 展示室総面積	4,296.30㎡
* 収蔵庫総面積	771.50㎡

内容

①～⑧展示室

⑨食堂（44席）

⑩玄関ホール

⑪トイレ

男子用 6 ヶ所

女子用 6 ヶ所

身体障害者用 2 ヶ所

⑫ホール

⑬講堂（200人）

⑭情報資料室

火～金

12:30～16:30

土・日・祝日

9:00～16:30

⑮研修室（40人）

⑯～⑳実技室

⑰窯場

⑱搬出入口

㉑機械室

㉒エレベーター

㉓館長室

㉔副館長室

㉕庶務課

㉖会議室

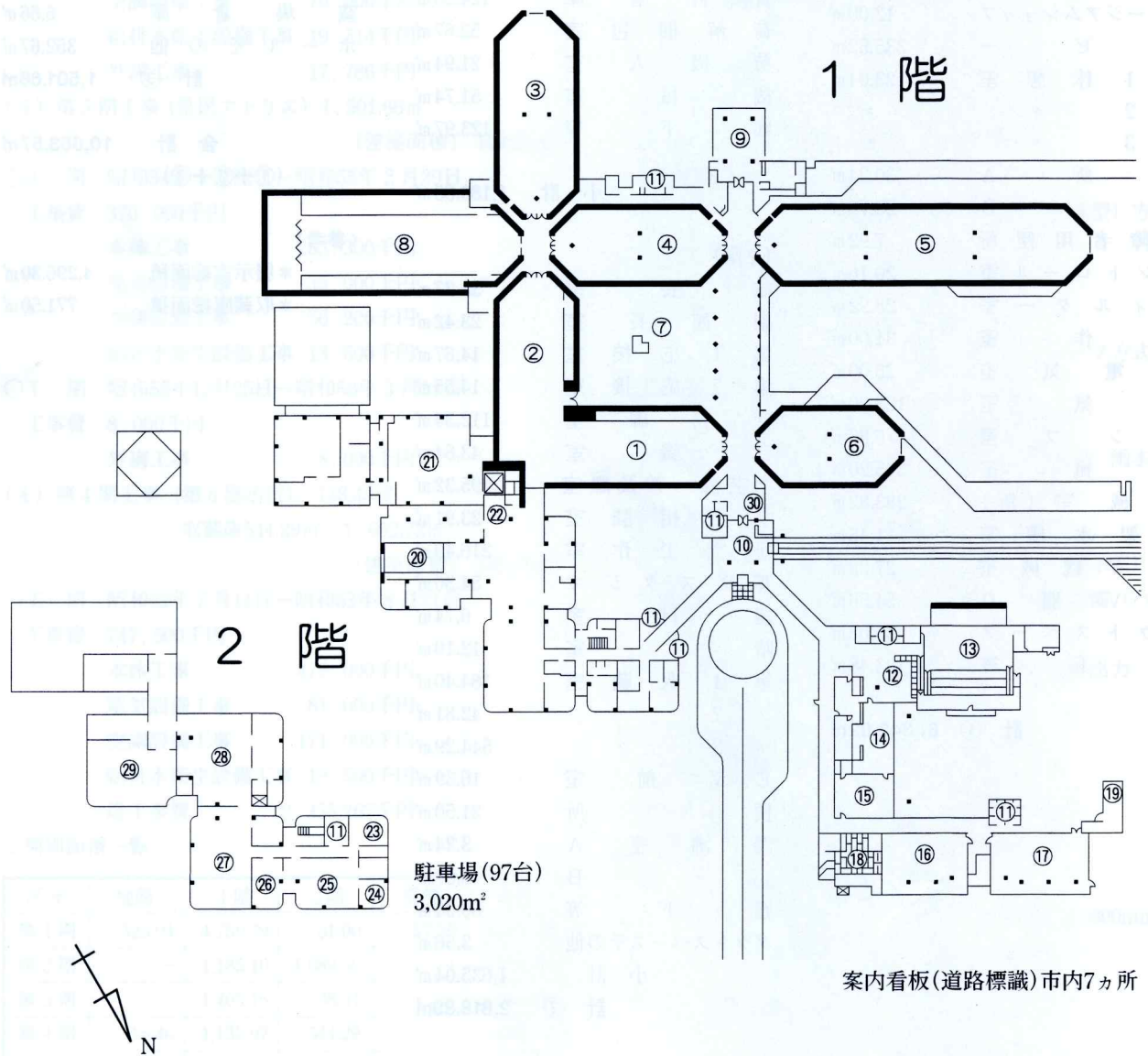
㉗学芸課・普及課

㉘研究工作室

㉙収蔵庫

㉚ミュージアム

ショップ



関係法令等

1 博物館管理規則

昭和45年千葉県教育委員会規則第22号

(目的)

第1条 この規則は、教育機関設置条例（昭和32年千葉県条例第4号）第20条に規定する博物館（以下「館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

2 館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、開館時間を変更することができる。

(休館日)

第3条 館の休館日は、次のとおりとする。

- 一 定期休館日 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第2条に規定する日に当たるときは、その翌日）
- 二 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- 三 年始休館日 1月1日から1月4日まで
- 四 年末休館日 12月26日から12月31日まで
- 五 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2 前項の休館日であっても、館長が特に必要と認めた場合は、館の全部又は一部を開館することがある。

(入館の制限)

第4条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- 一 特別展覧会又は現代産業科学館の映像ホールを観覧しようとする者で、所定の観覧券を所持しない者
- 二 適当な指導者、保護者又は付添人のない6歳に満たない者
- 三 泥酔者、伝染病患者その他観覧者に不快の感を与えると認められる者

(観覧券等)

第5条 館の特別展覧会観覧券は、別記第1号様式とする。

2 現代産業科学館の映像ホール観覧券は、別記第2号様式とする。

3 団体（20人以上の場合をいう。）で観覧しようとするときは、あらかじめ団体観覧申込書（別記第3号様式）により、館長に申し込まなければならない。

(禁止行為)

第6条 入館者は、次に掲げる行為をしてはならない。

- 一 展示品に手をふれること及び展示室でインク、墨汁類を使用すること。
- 二 許可なくして展示品を模写し、又は撮影すること。
- 三 所定の場所以外の場所において喫煙又は飲食すること。
- 四 その他他の入館者の妨げになるような行為をすること。

(損害の賠償)

第7条 館長は、入館者が館の展示品、建物若しくは備品等をき損し、又は汚損したときは、現品又は相当の代価をもって弁償させることがある。

(委任)

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長の承認を得て、館長が定める。

附 則

この規則は、昭和46年1月15日から施行する。

別記様式（省略）

2 使用料及び手数料条例（抜粋）

昭和31年千葉県条例第6号

(趣旨)

第1条 県が徴収する使用料及び手数料（以下「使用料等」という。）に関しては、別に規定するもののほか、この条例の定めるところによる。

(使用料等の徴収)

第2条 県が所有し、又は管理する行政財産及び公の施設（以下「財産等」という。）の使用並びに特定の個人のためにする事務（以下「事務」という。）に関し、法令及び他の条例に規定するもののほか、当該財産等を使用しようとする者から使用料を、当該事務を依頼しようとする者から手数料を徴収するものとする。

(種類及び額)

第3条 前条の規定により使用料等を徴収する財産等及び事務の種類並びにその使用料等の額は、別表第一に掲げるとおりとする。

(中略)

(徴収の特例)

第8条の2 県民の日を定める条例（昭和59年千葉県条例第3号）に規定する県民の日その他規則で定める場合において、県の設置した公の施設で、規則で定めるものに係る使用料については、第2条及び第3条の規定にかかわらず、これを徴収しない。

別表第一（抜粋）

財産又は事務の種類	使用料等	区 分	単 位	額
博 物 館	入場料	特 別 展覧会	1人1回 につき	1,000円 以 内

(以下省略)

3 使用料及び手数料条例施行規則（抜粋）

昭和31年千葉県規則第29号

(徴収の特例)

第9条 条例第8条の2の規定による規則で定める場合及び規則で定めるものは、別表第三のとおりとする。

別表第三（抜粋）

行 事 等	施 設
県民の日(6月15日) 65歳以上の者、身体障害者(介護者を含む。) 又は知的障害者が使用する場合	博 物 館

利 用 案 内

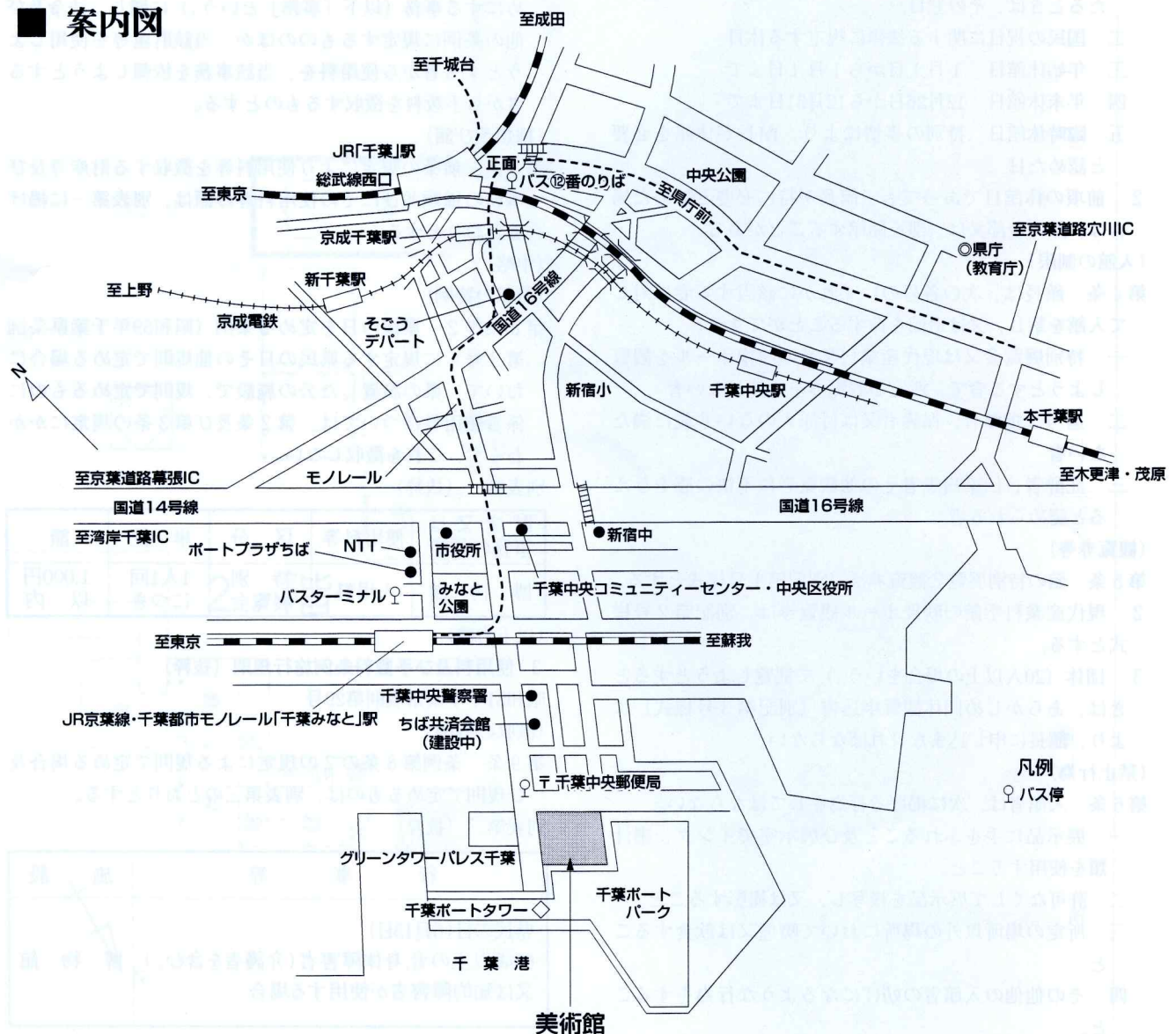
■ 開館時間

開館時間 午前9時から午後4時30分まで
 休館日 ・ 月曜日（ただし、月曜が祝日のときは開館し、翌日休館）
 ・ 年末年始（12月26日～1月4日）
 ・ 展示替え等のため、必要があるとき。
 観覧料 無料（ただし、特別展は有料）

■ 交 通

★JR（京葉線）・千葉都市モノレール「千葉みなと」駅下車，徒歩8分。
 ★JR「千葉」駅・京成線「京成千葉」駅下車
 ●徒歩23分。
 ●バス⑫番のりばから「千葉ポートタワー」行にて15分。「美術館・中央郵便局前」下車，徒歩1分。
 ★〈東京方面から〉東関東自動車道「湾岸習志野」ICから約20分
 ★〈成田方面から〉京葉道路「穴川」ICから約20分
 ★〈東金方面から〉京葉道路「松ヶ丘」ICから約20分

■ 案内図



平成12年度千葉県立美術館年報 (No.27)

平成13年8月31日発行

発行者 千葉県立美術館

〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1

T E L 0 4 3 (2 4 2) 8 3 1 1

U R L <http://www.chiba-muse.or.jp/ART/index.htm>

